

平成29年度（2017年度）
インターネットアンケート
調査報告書

性的マイノリティの方々への支援に関する調査

平成30年（2018年）3月

港区

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

目 次

I 調査概要	1
II 回答者の属性	2
III 調査結果	6
1 カミングアウトについて	6
（1）性的少数者であるとカミングアウトした人数	6
（2）カミングアウトした相手	9
2 パートナーシップについて	11
（1）パートナーの有無	11
（2）パートナーとの同居	13
（3）現在の住まい	14
（4）今後のパートナーとの同居意向	16
3 生活面での困難について	17
（1）子ども時代にセクシュアリティに由来して困ったこと	17
（2）求職・就労時にセクシュアリティに由来して困ったこと	19
（3）地域で暮らす上でセクシュアリティに由来して困ったこと	20
（4）経験したことがあるもの	22
（5）今までに感じた困難や不安	24
4 自治体等の取り組みについて	26
（1）自治体が導入した同性同士の「パートナーシップ宣誓制度」の認知	26
（2）港区が採択した「パートナーシップ公的認証」の認知	28
（3）居住の自治体で「パートナーシップ宣誓制度」がある場合の宣誓意向	29
（4）「パートナーシップ宣誓制度」の活用手段として期待すること	31
（5）「パートナーシップ宣誓制度」の宣誓をしたいと思います理由	34
（6）行政に望むこと	36

I 調査概要

1 調査目的

性的マイノリティ（LGBT）の方々の実態や置かれている状況、行政への要望等を把握し、性的マイノリティの方への偏見や差別をなくすための効果的な取組を進めるため

2 調査期間

平成30年2月16日（金）～平成30年3月2日（金）（15日間）
※港区・千代田区・中央区・新宿区在住者は、2月16日から開始
その他の区在住者は2月23日から開始

3 調査対象者

18歳以上で23区在住の性的マイノリティの方
次のいずれにも該当しない方

- ① 出生時男性で、現在の戸籍が男性で、自認している性別が男性で、恋愛対象者が女性の方
- ② 出生時女性で、現在の戸籍が女性で、自認している性別が女性で、恋愛対象者が男性の方

株式会社マーケティングアプリケーションズが所有するアンケートパネル(※)から6万5千人に配信し、該当者を抽出

(※)アンケートパネル：アンケートモニターとして登録されている個人

4 調査設計

フェイスシート 7問
設問 17問

5 調査方法

インターネット調査
(パソコンのWebページ画面に質問票と回答欄を表示して回答を送信してもらう調査)

6 回答状況

回収数 400件

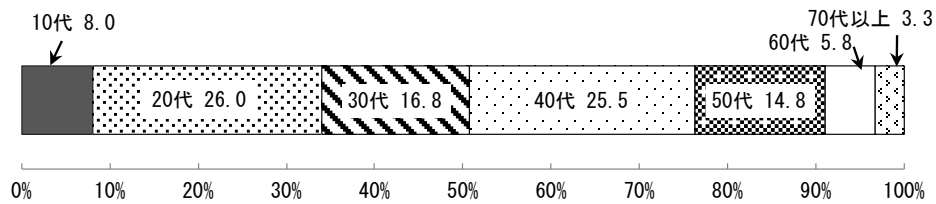
【集計結果の見方】

- ・集計結果は百分率（単位：％）で表示し、小数点第2位を四捨五入しました。そのため、合計が100%にならないものがあります。
- ・回答者数が「0」の場合は数値を表示していないものがあります。
- ・「n」は有効回答数を表します。
- ・分析軸の回答サンプル数が30サンプル未満の結果については、回答者数が少ないため参考としてのみグラフ掲載し、コメントは記入していません。

II 回答者の属性

1 年代 (Q1)

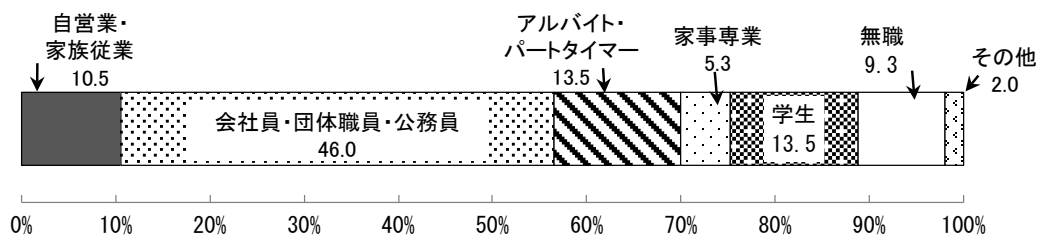
(n=400)



合計	400	100%
10代	32	8.0%
20代	104	26.0%
30代	67	16.8%
40代	102	25.5%
50代	59	14.8%
60代	23	5.8%
70代以上	13	3.3%

2 職業 (Q2)

(n=400)



合計	400	100%
自営業・家族従業	42	10.5%
会社員・団体職員・公務員	184	46.0%
アルバイト・パートタイマー	54	13.5%
家事専業	21	5.3%
学生	54	13.5%
無職	37	9.3%
その他	8	2.0%

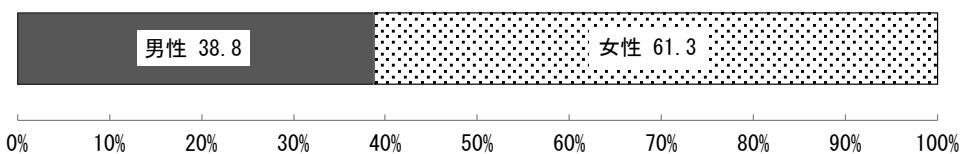
3 居住地（居住区）（Q3）

(n=400)

合計	400	100%
港区	50	12.5%
千代田区	24	6.0%
中央区	27	6.8%
新宿区	80	20.0%
文京区	10	2.5%
台東区	5	1.3%
墨田区	4	1.0%
江東区	7	1.8%
品川区	14	3.5%
目黒区	4	1.0%
大田区	19	4.8%
世田谷区	18	4.5%
渋谷区	4	1.0%
中野区	9	2.3%
杉並区	22	5.5%
豊島区	8	2.0%
北区	6	1.5%
荒川区	1	0.3%
板橋区	22	5.5%
練馬区	22	5.5%
足立区	20	5.0%
葛飾区	9	2.3%
江戸川区	15	3.8%

4 出生時の性別（Q4）

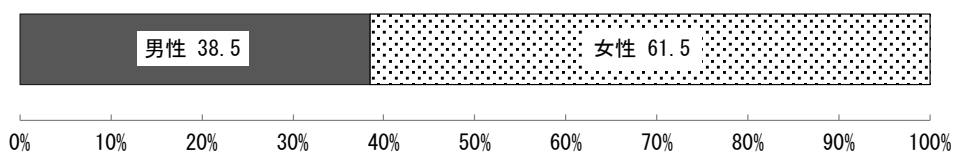
(n=400)



合計	400	100%
男性	155	38.8%
女性	245	61.3%

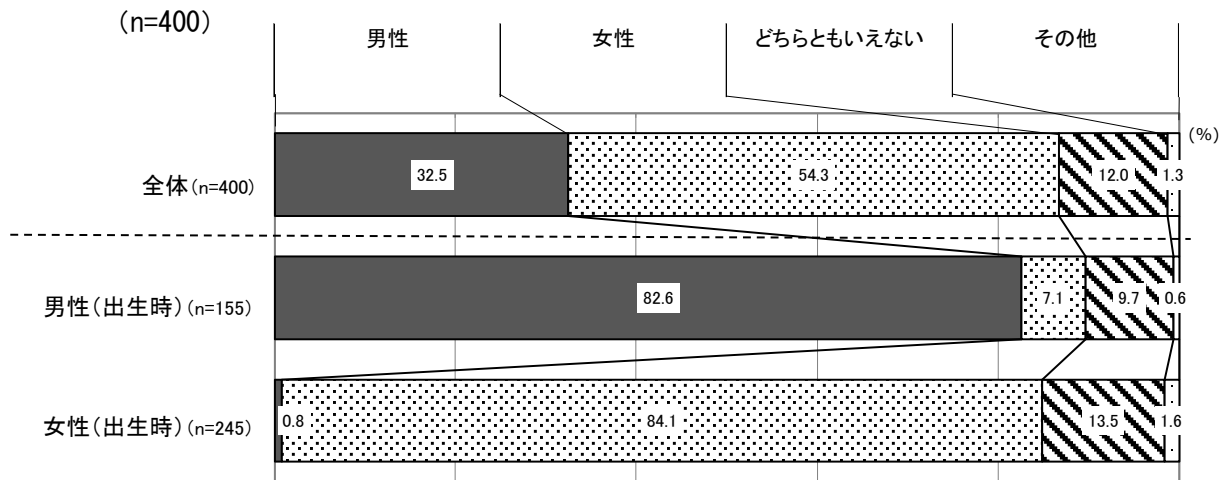
5 現在の戸籍上の性別（Q5）

(n=400)



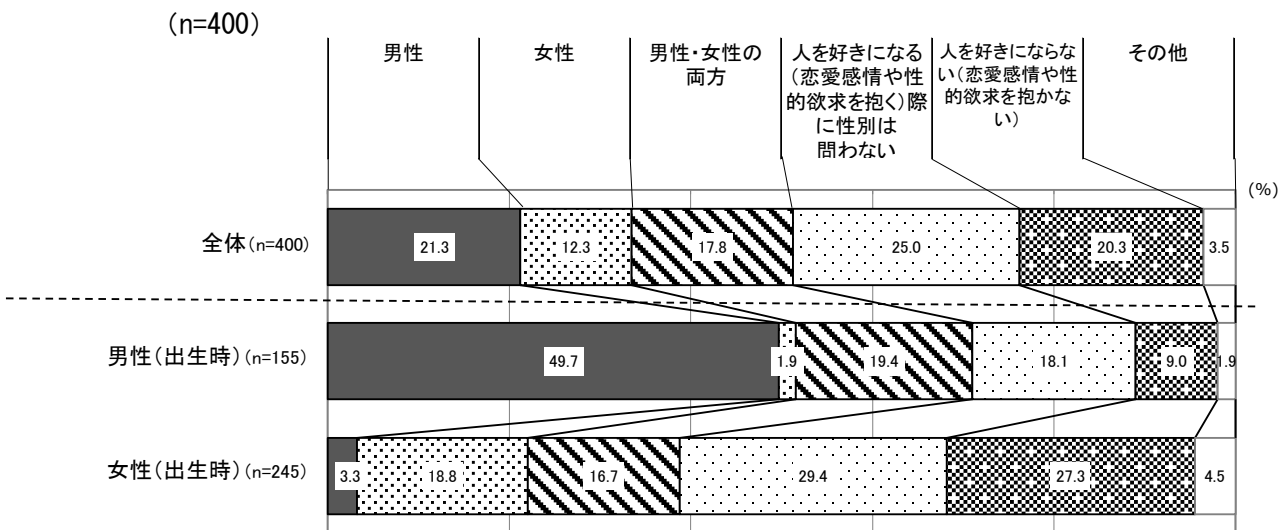
合計	400	100%
男性	154	38.5%
女性	246	61.5%

6 現在自認している性別 (Q6)



合計	400	100.0%
男性	130	32.5%
女性	217	54.3%
どちらともいえない	48	12.0%
その他	5	1.3%

7 恋愛対象となる相手の性別 (Q7)



合計	400	100.0%
男性	85	21.3%
女性	49	12.3%
男性・女性の両方	71	17.8%
人を好きになる (恋愛感情や性的欲求を抱く) 際に性別は問わない	100	25.0%
人を好きにならない (恋愛感情や性的欲求を抱かない)	81	20.3%
その他	14	3.5%

[定義]

回答者の属性のうち、自認している性別（Q6）と恋愛対象となる相手の性別（Q7）から、「同性愛者」、「非同性愛者」、「自認している性別がどちらともいえない + その他」と分類し、以下のとおり定義します。

男性(自認)同性愛者：自認している性別「男性」、かつ恋愛対象となる相手の性別「男性」

女性(自認)同性愛者：自認している性別「女性」、かつ恋愛対象となる相手の性別「女性」

男性(自認)非同性愛者：自認している性別「男性」、

かつ恋愛対象となる相手の性別「男性」のみでない

女性(自認)非同性愛者：自認している性別「女性」、

かつ恋愛対象となる相手の性別「女性」のみでない

自認性別「どちらともいえない」+「その他」：自認している性別「どちらともいえない」

または「その他」

Ⅲ 調査結果

1 カミングアウトについて

(1) 性的少数者であるとカミングアウトした人数

Q8 あなたがこれまでにカミングアウトした(少数者だと伝えた)人数をお答えください。

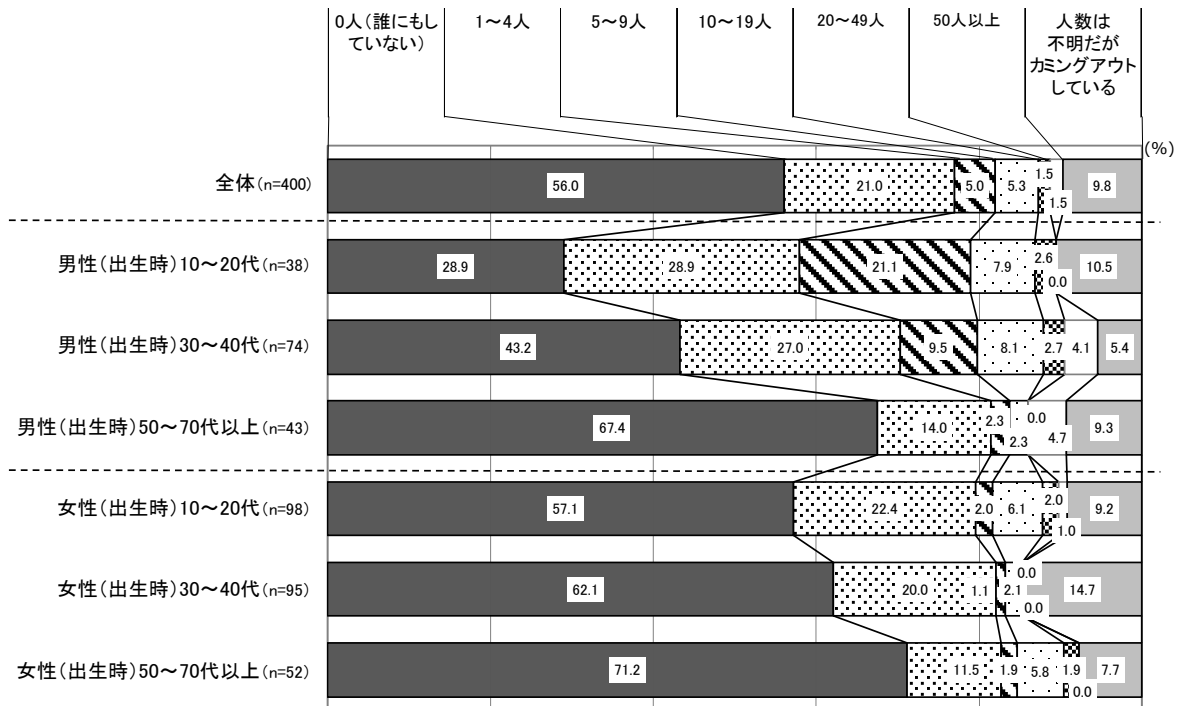
(選択問題 単一回答)

(n=400)	(%)
1 0人(誰にもしていない)	56.0
2 1~4人	21.0
3 5~9人	5.0
4 10~19人	5.3
5 20~49人	1.5
6 50人以上	1.5
7 人数は不明だがカミングアウトしている	9.8

「0人(誰にもしていない)」が56.0%で最も多くなっています。

カミングアウトした中では、「1~4人」が21.0%で最も多く、「5~9人」が5.0%、「10~19人」が5.3%となっています。また、「人数は不明だがカミングアウトしている」が9.8%となっています。

図表1-1 性的少数者であるとカミングアウトした人数(出生時の性別・年代別)(n=400)



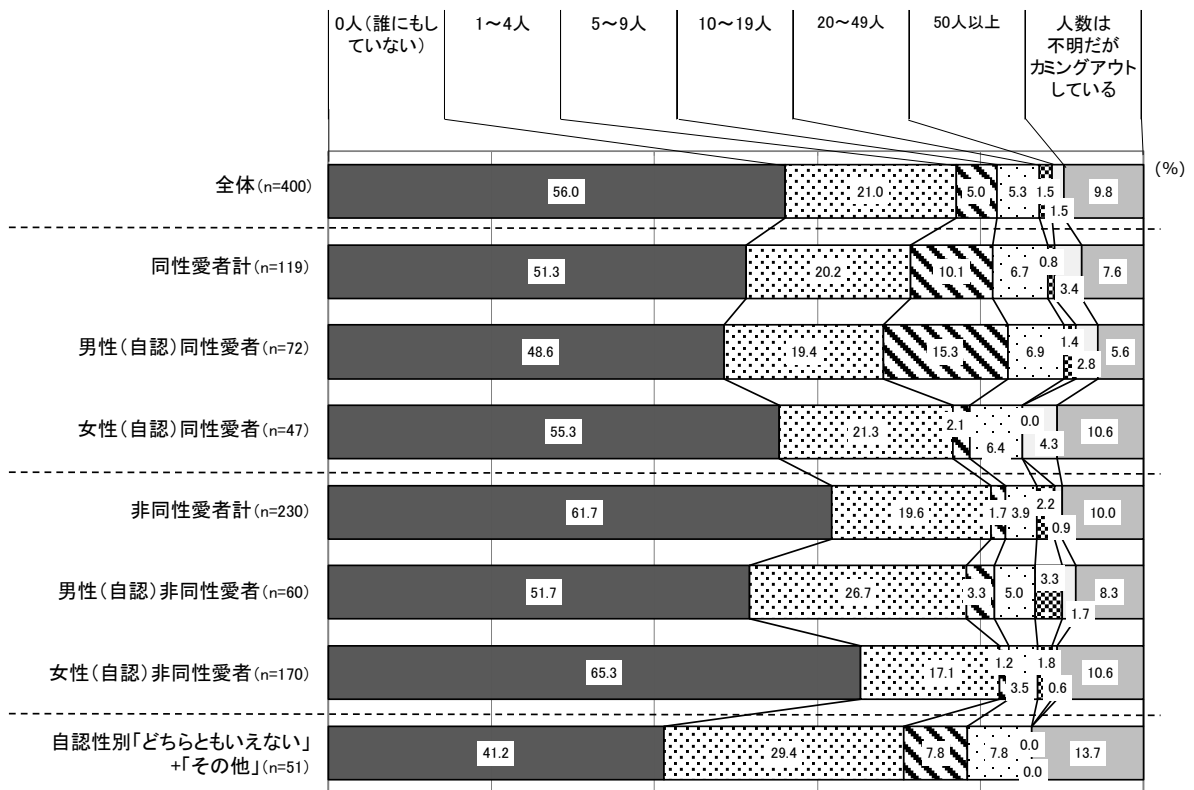
【出生時の性別・年代別】

出生時男性の10~20代は、「0人(誰にもしていない)」と「1~4人」がともに28.9%となっています。30~40代は、「0人(誰にもしていない)」が43.2%、「1~4人」が27.0%となっています。50~70代以上は、「0人(誰にもしていない)」が67.4%、「1~4人」が14.0%となっています。

出生時女性の10~20代は、「0人(誰にもしていない)」が57.1%、「1~4人」が22.4%となっています。30~40代は、「0人(誰にもしていない)」が62.1%、「1~4人」が20.0%となっています。50~70代以上は、「0人(誰にもしていない)」が71.2%、「1~4人」が11.5%となっています。

図表1-2 性的少数者であるとカミングアウトした人数

(自認している性別・同性愛／非同性愛別) (n=400)



【自認している性別・同性愛／非同性愛別】

男性を自認している同性愛者は、「0人(誰にもしていない)」が48.6%、「1~4人」が19.4%となっています。女性を自認している同性愛者は、「0人(誰にもしていない)」が55.3%、「1~4人」が21.3%となっています。

男性を自認している非同性愛者は、「0人(誰にもしていない)」が51.7%、「1~4人」が26.7%となっています。女性を自認している非同性愛者は、「0人(誰にもしていない)」が65.3%、「1~4人」が17.1%となっています。

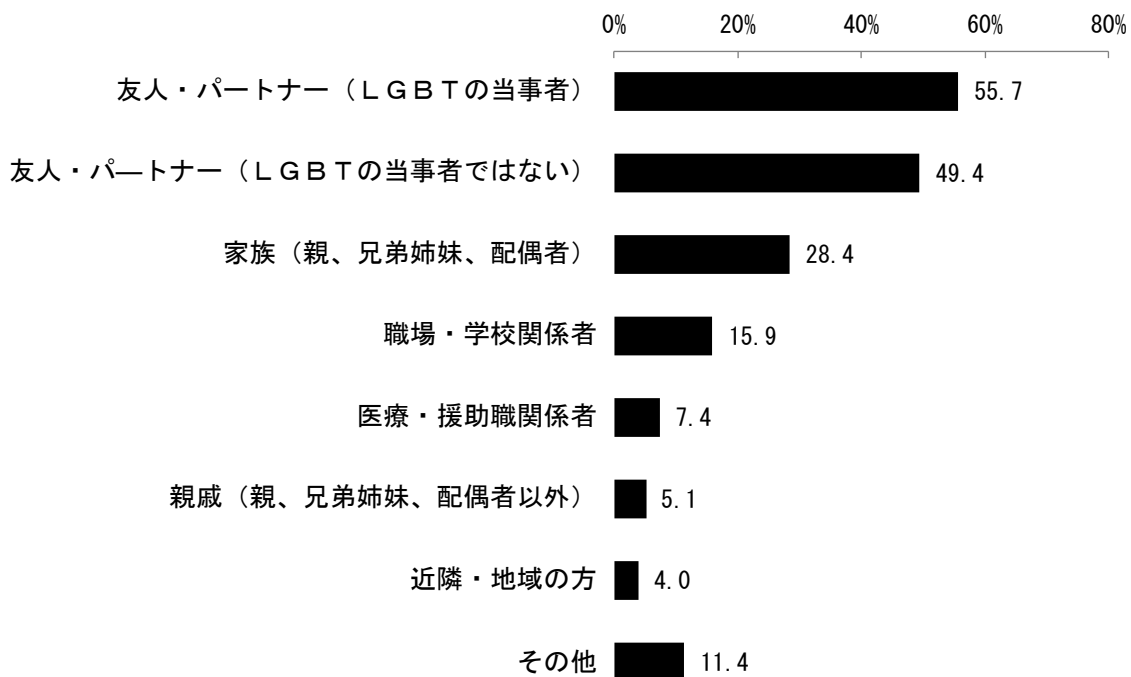
(2) カミングアウトした相手

[Q8で「2 1~4人」~「7 人数は不明だがカミングアウトしている」を選択された方のみ]

Q9 あなたがこれまでにカミングアウトした相手をお答えください。(複数回答可)

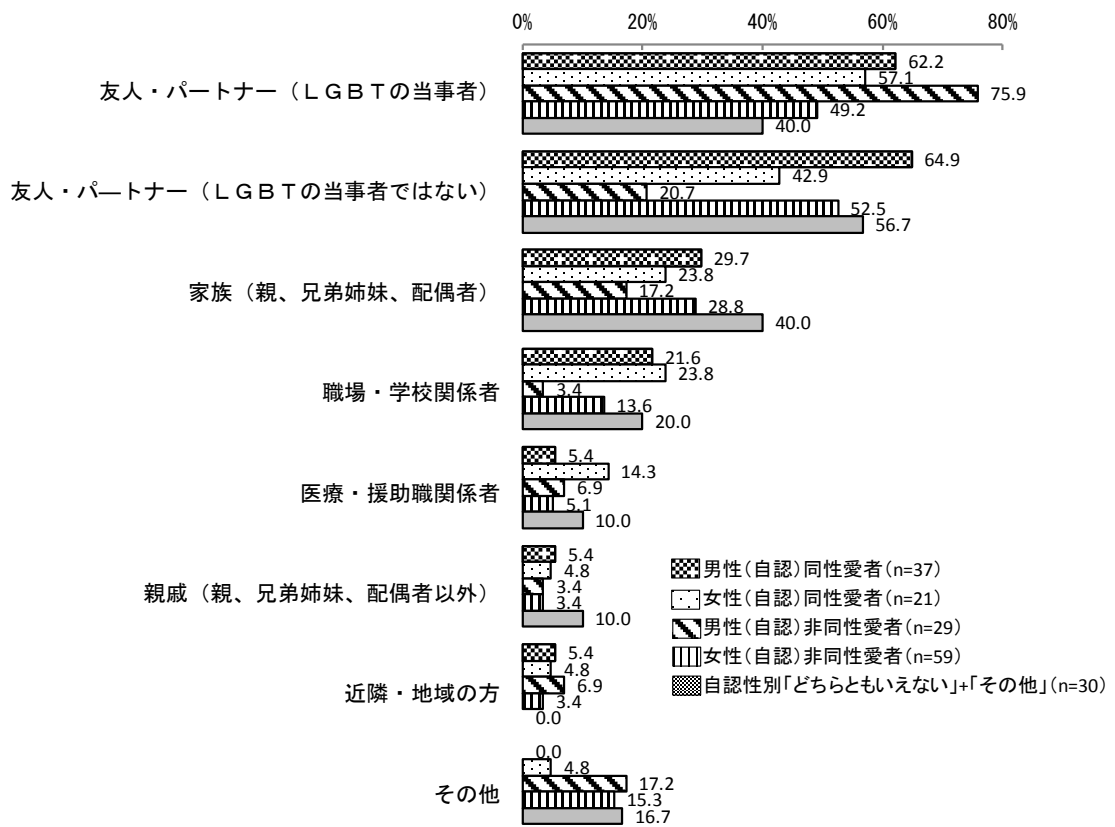
(n=176)	(%)
1 友人・パートナー(LGBTの当事者)	55.7
2 友人・パートナー(LGBTの当事者ではない)	49.4
3 家族(親、兄弟姉妹、配偶者)	28.4
4 職場・学校関係者	15.9
5 医療・援助職関係者	7.4
6 親戚(親、兄弟姉妹、配偶者以外)	5.1
7 近隣・地域の方	4.0
8 その他	11.4

図表1-3 カミングアウトした相手 (カミングアウトしたことがある n=176)



カミングアウトをした相手は、「友人・パートナー (LGBTの当事者)」が 55.7% で最も多く、次いで「友人・パートナー (LGBTの当事者ではない)」が 49.4% となっています。その他では、「家族 (親、兄弟姉妹、配偶者)」が 28.4%、「職場・学校関係者」が 15.9% となっています。

図表1-4 カミングアウトした相手（自認している性別・同性愛／非同性愛別）
（カミングアウトしたことがある n=176）



【自認している性別・同性愛／非同性愛別】

男性を自認している同性愛者は「友人・パートナー (LGBT当事者ではない)」が64.9%と多くなっています。

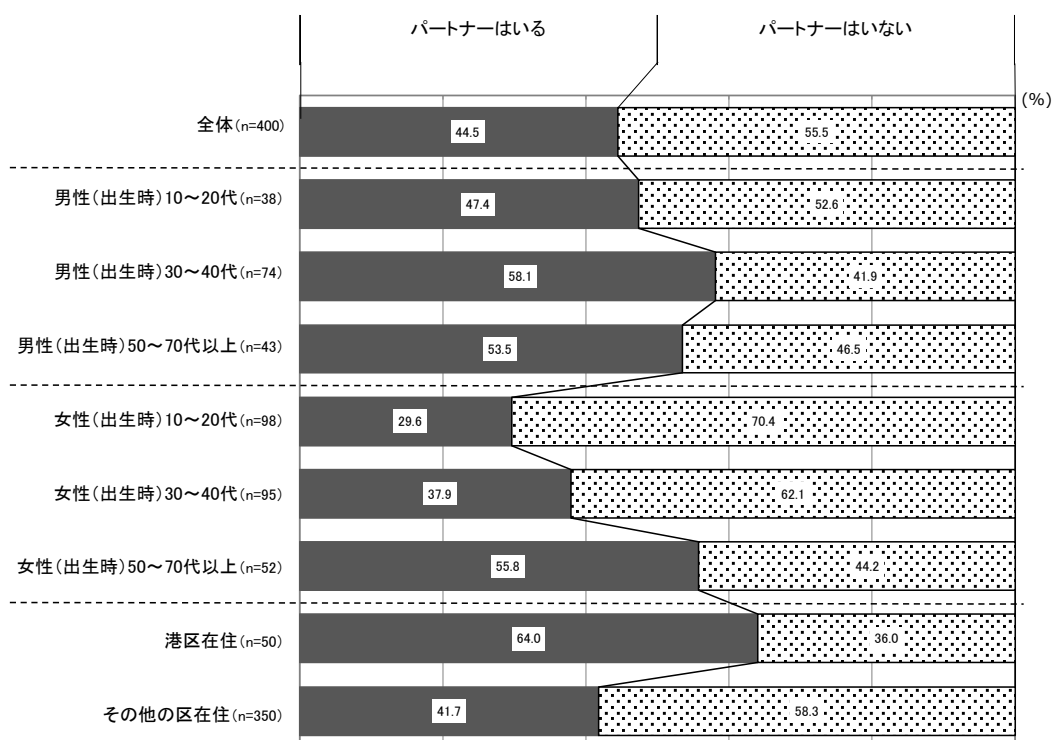
2 パートナーシップについて

(1) パートナーの有無

Q10 あなたは現在、夫・妻・パートナーと認識している人(以下「パートナー」と記載)はいますか。(選択問題 単一回答)	
(n=400)	(%)
1 いる	44.5
2 いない	55.5

「いる」は44.5%、「いない」は55.5%となっています。

図表2-1 パートナーの有無（出生時の性別・年代別／居住区別）（n=400）



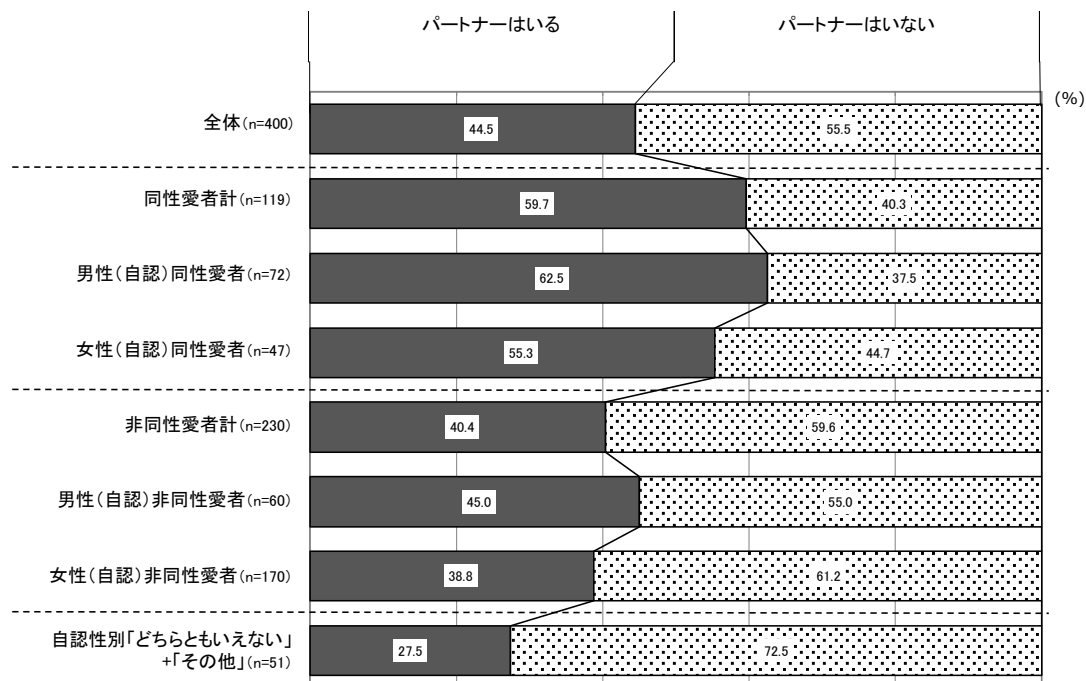
【出生時の性別・年代別】

出生時男性の「いる」は、10~20代が47.4%、30~40代が58.1%、50~70代以上が53.5%となっています。出生時女性の「いる」は、10~20代が29.6%、30~40代が37.9%、50~70代以上が55.8%となっています。

【居住区別】

港区在住者は、「いる」が64.0%、その他の区在住者は41.7%となっています。

図表2-2 パートナーの有無（自認している性別・同性愛／非同性愛別）（n=400）



【自認している性別・同性愛／非同性愛別】

同性愛者は、「いる」が59.7%、非同性愛者は40.4%となっています。

(2) パートナーとの同居

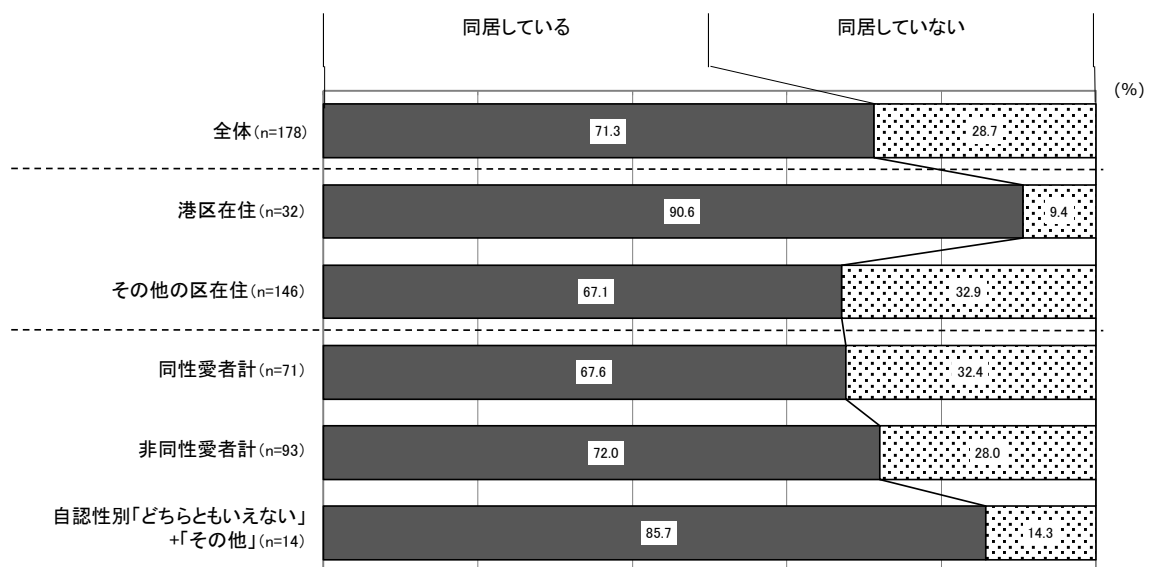
[Q10で「1 いる」を選択された方のみ]

Q11 あなたはパートナーと同居をしていますか。(選択問題 単一回答)

(n=178)	(%)
1 同居している	71.3
2 同居していない	28.7

パートナーがいる方は、「同居している」が71.3%、「同居していない」が28.7%となっています。

図表2-3 パートナーとの同居（居住区別・同性愛／非同性愛別）
（パートナーがいる n=178）



【居住区別】

港区在住者の「同居している」は90.6%と多く、その他の区在住者は67.1%となっています。

【同性愛／非同性愛別】

同性愛者は、「同居している」が67.6%、非同性愛者は72.0%となっています。

(3) 現在の住まい

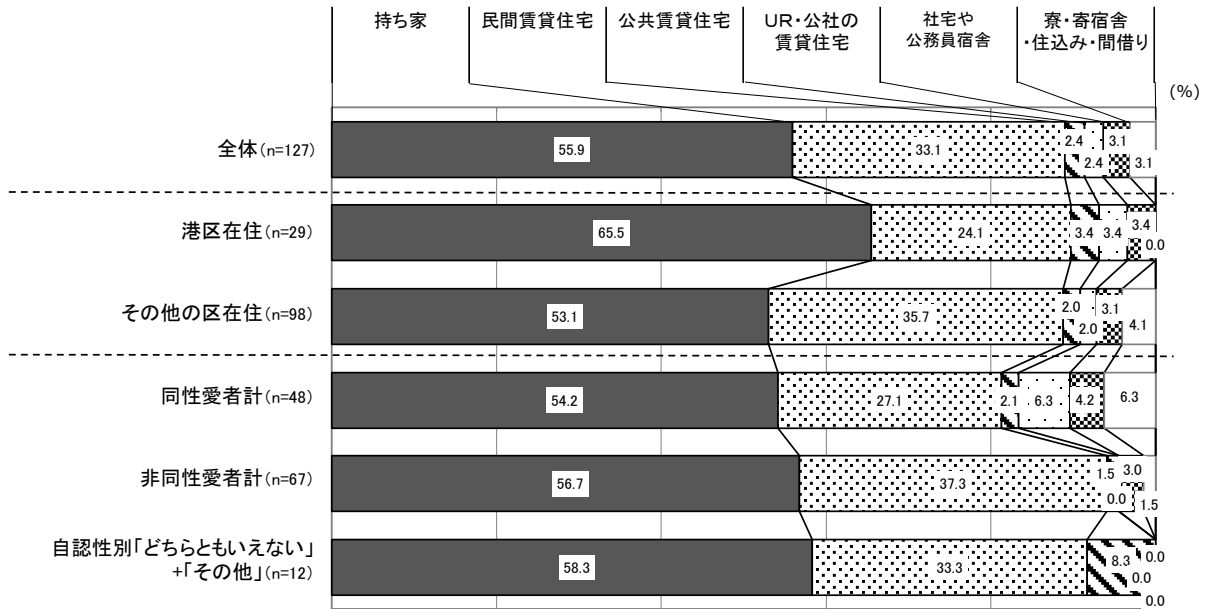
[Q11で「1 同居している」を選択された方のみ]

Q12 あなたの現在のお住まいについてお答えください。(選択問題 単一回答)

(n=127)	(%)
1 持ち家	55.9
2 民間賃貸住宅	33.1
3 公共賃貸住宅	2.4
4 UR・公社の賃貸住宅	2.4
5 社宅や公務員宿舎	3.1
6 寮・寄宿舎・住込み・間借り	3.1
7 その他	0.0

パートナーと同居している方の住まいは、「持ち家」が55.9%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅」が33.1%となっています。

図表2-4 現在の住まい（居住区別・同性愛／非同性愛別）（パートナーと同居 n=127）



【居住区別】

港区在住者は「持ち家」が65.5%、「民間賃貸住宅」が24.1%となっています。その他の区在住者は「持ち家」が53.1%、「民間賃貸住宅」が35.7%となっています。

【同性愛／非同性愛別】

同性愛者は「持ち家」が54.2%、「民間賃貸住宅」が27.1%、非同性愛者は「持ち家」が56.7%、「民間賃貸住宅」が37.3%となっています。

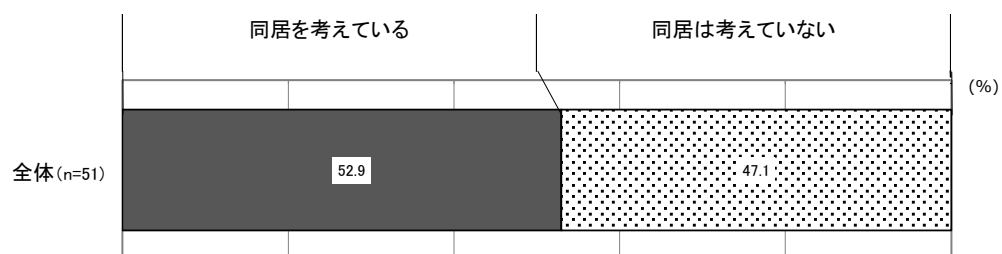
(4) 今後のパートナーとの同居意向

[Q11で「2 同居していない」を選択された方のみ]

Q13 あなたは今後、パートナーと同居することを考えていますか。(選択問題 単一回答)

(n=51)	(%)
1 考えている	52.9
2 考えていない	47.1

図表2-5 今後のパートナーとの同居意向 (パートナーと同居していない n=51)



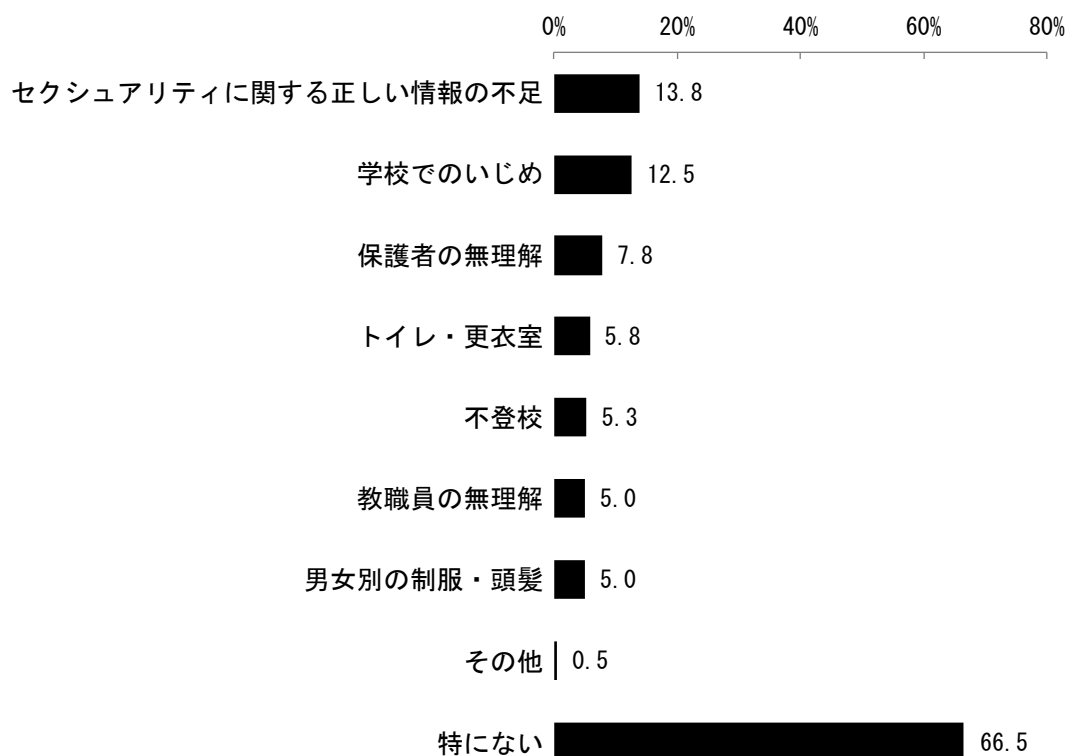
パートナーと同居していない方の今後の同居意向は、「考えている」が52.9%で、「考えていない」が47.1%となっています。

3 生活面での困難について

(1) 子ども時代にセクシュアリティに由来して困ったこと

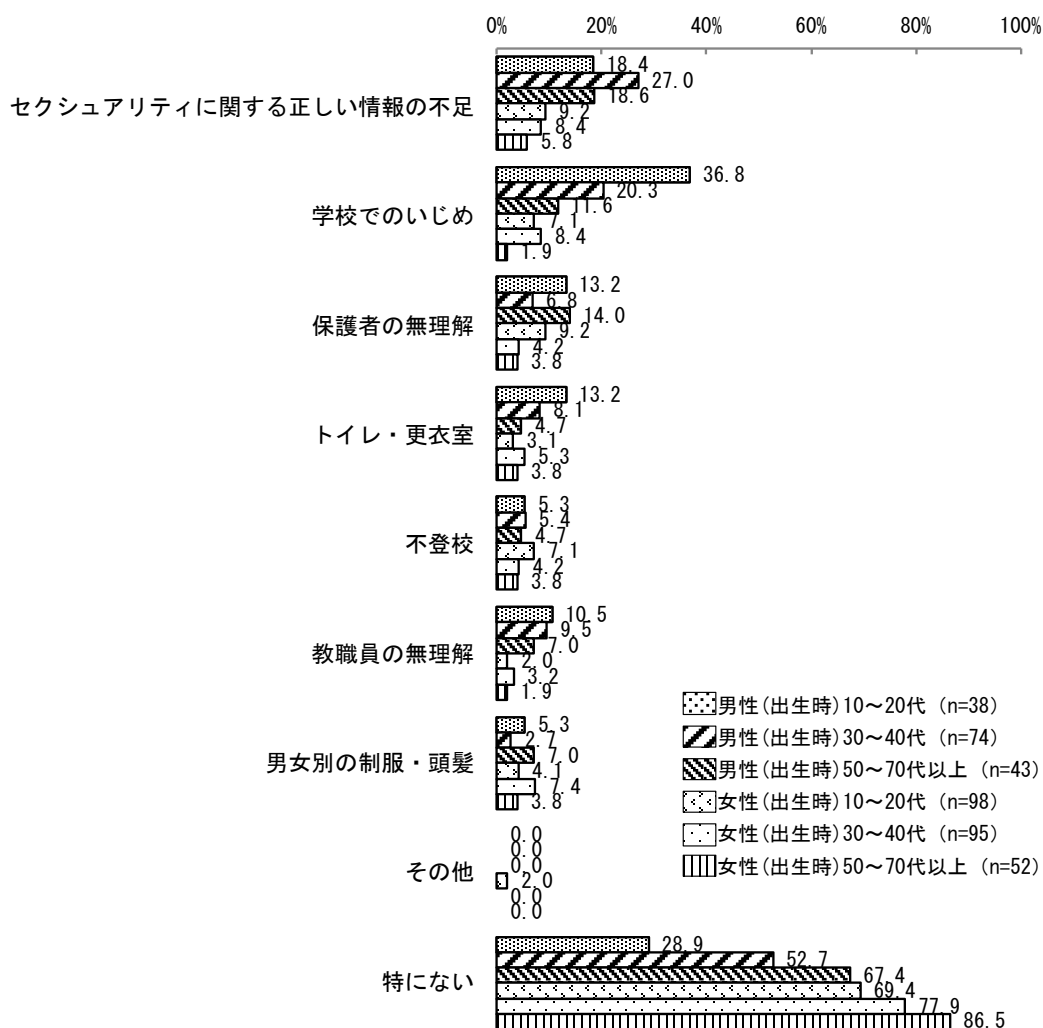
Q14 あなたが子どもの頃にセクシュアリティに由来して(LGBT当事者であることで) 困ったことをお答えください。(複数回答可)	
(n=400)	(%)
1 学校でのいじめ	12.5
2 不登校	5.3
3 保護者の無理解	7.8
4 教職員の無理解	5.0
5 セクシュアリティに関する正しい情報の不足	13.8
6 トイレ・更衣室	5.8
7 男女別の制服・頭髪	5.0
8 その他()	0.5
9 特にない	66.5

図表3-1 子ども時代にセクシュアリティに由来して困ったこと (n=400)



「特にない」が66.5%で最も多くなっています。困ったことは、「セクシュアリティに関する正しい情報の不足」が13.8%と最も多く、「学校でのいじめ」が12.5%、「保護者の無理解」が7.8%、「トイレ・更衣室」が5.8%、「不登校」が5.3%となっています。

図表3-2 子ども時代にセクシュアリティに由来して困ったこと
(出生時の性別・年代別) (n=400)



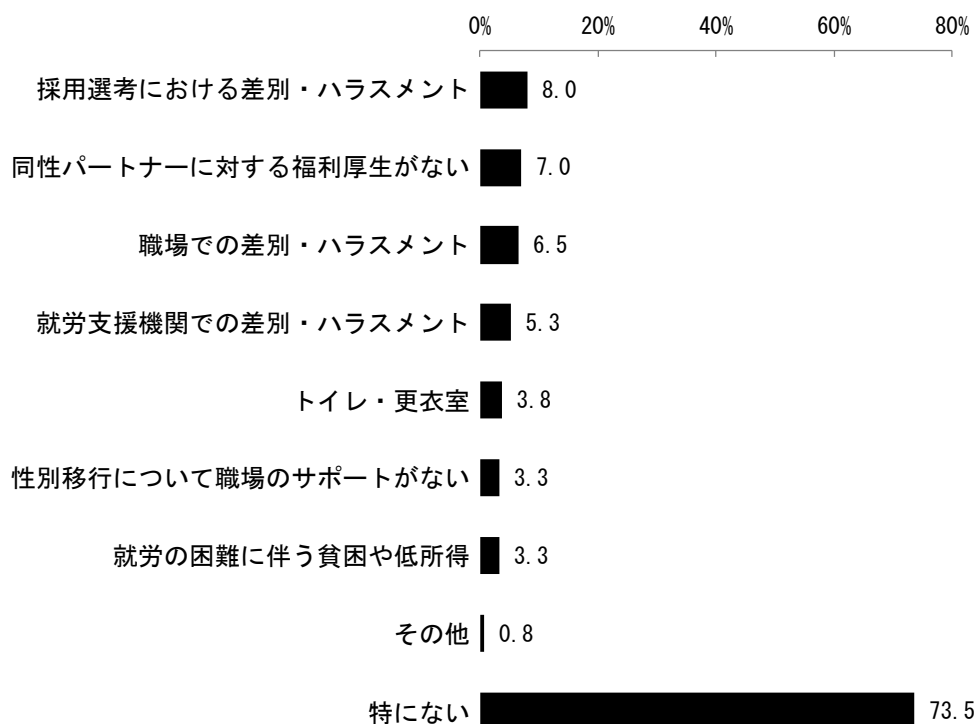
【出生時の性別・年代別】

出生時男性の10~20代は「学校でのいじめ」が36.8%で多くなっています。30~40代は「セクシュアリティに関する正しい情報の不足」が27.0%と多くなっています。

(2) 求職・就労時にセクシュアリティに由来して困ったこと

Q15 あなたが求職・就労時にセクシュアリティに由来して(LGBT当事者であることで) 困ったことをお答えください。(複数回答可)	
(n=400)	(%)
1 採用選考における差別・ハラスメント	8.0
2 就労支援機関での差別・ハラスメント	5.3
3 職場での差別・ハラスメント	6.5
4 同性パートナーに対する福利厚生がない	7.0
5 性別移行について職場のサポートがない	3.3
6 就労の困難に伴う貧困や低所得	3.3
7 トイレ・更衣室	3.8
8 その他()	0.8
9 特にない	73.5

図表3-3 求職・就労時にセクシュアリティに由来して困ったこと (n=400)

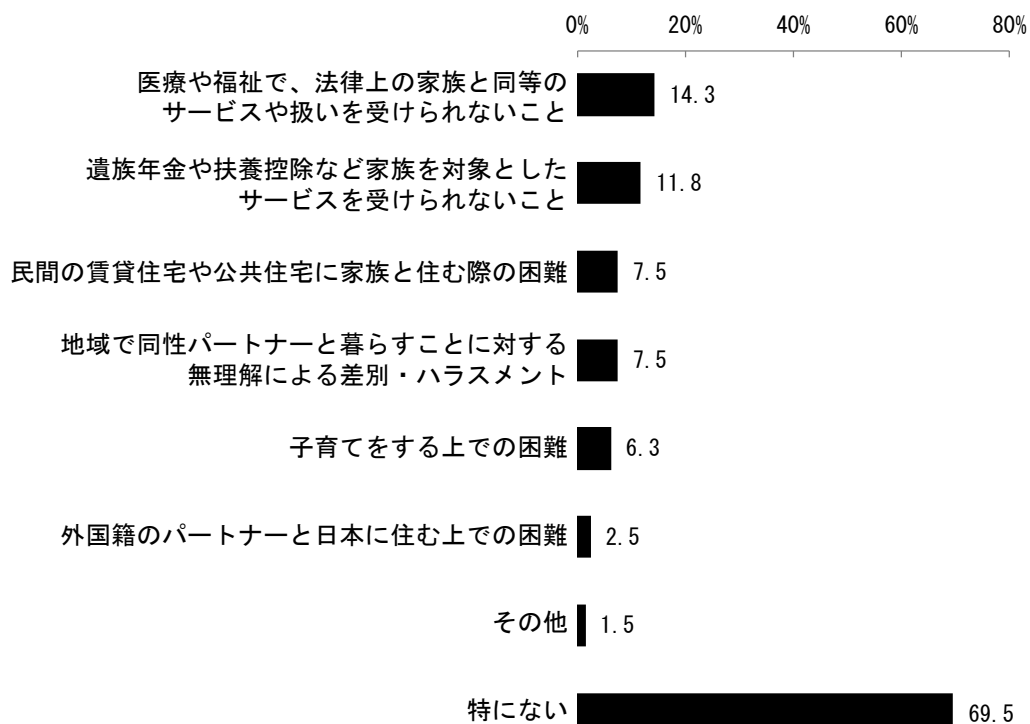


「特にない」が73.5%で最も多くなっています。困ったことは、「採用選考における差別・ハラスメント」が8.0%、「同性パートナーに対する福利厚生がない」が7.0%、「職場での差別・ハラスメント」が6.5%となっています。

(3) 地域で暮らす上でセクシュアリティに由来して困ったこと

Q16 あなたが地域で暮らす上でセクシュアリティに由来して(LGBT当事者であることで) 困ったことをお答えください。(複数回答可)	
(n=400)	(%)
1 医療や福祉で、法律上の家族と同等のサービスや扱いを受けられないこと	14.3
2 遺族年金や扶養控除など家族を対象としたサービスを受けられないこと	11.8
3 子育てをする上での困難	6.3
4 民間の賃貸住宅や公共住宅に家族と住む際の困難	7.5
5 外国籍のパートナーと日本に住む上での困難	2.5
6 地域で同性パートナーと暮らすことに対する無理解による差別・ハラスメント	7.5
7 その他()	1.5
8 特にない	69.5

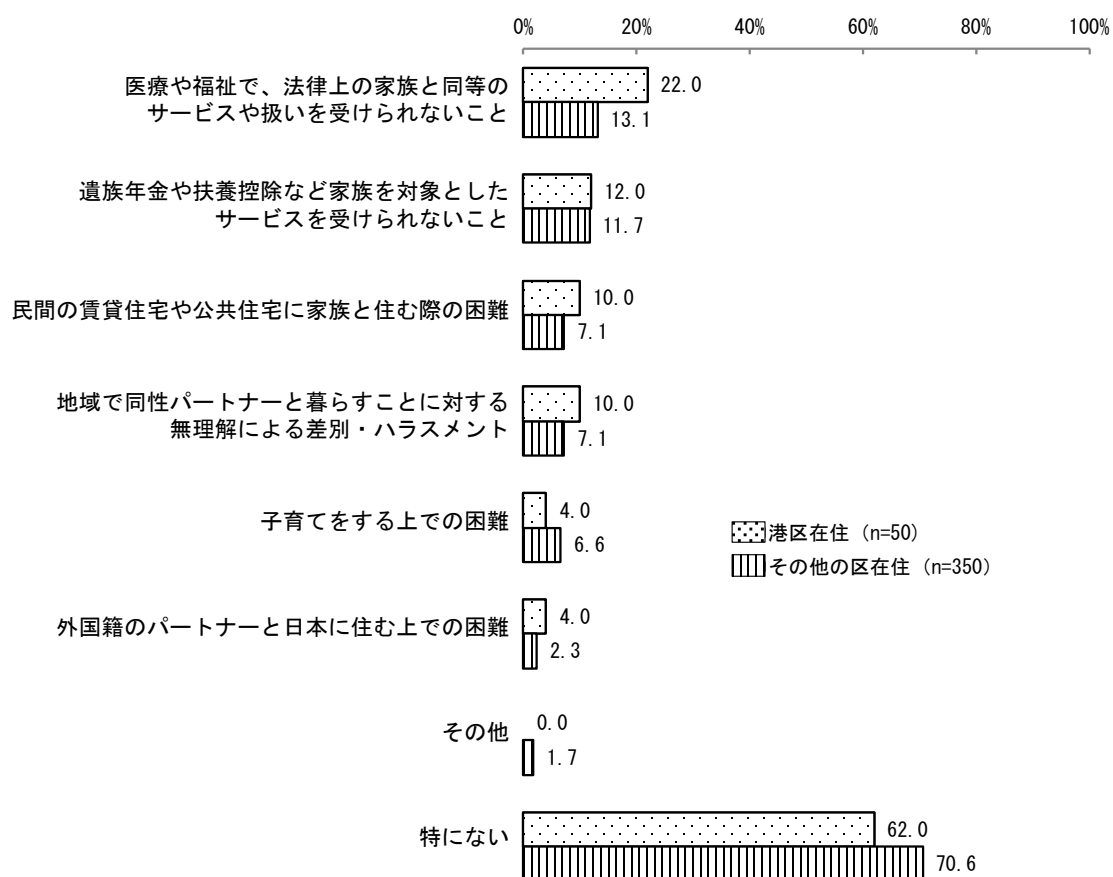
図表3-4 地域で暮らす上でセクシュアリティに由来して困ったこと (n=400)



「特にない」が69.5%で最も多くなっています。困ったことは、「医療や福祉で、法律上の家族と同等のサービスや扱いを受けられないこと」が14.3%で最も多く、「遺族年金や扶養控除など家族を対象としたサービスを受けられないこと」が11.8%、「民間の賃貸

住宅や公共住宅に家族と住む際の困難」と「地域で同性パートナーと暮らすことに対する無理解による差別・ハラスメント」がともに7.5%、「子育てをする上での困難」が6.3%となっています。

図表3-5 地域で暮らす上でセクシュアリティに由来して困ったこと（居住区別）（n=400）



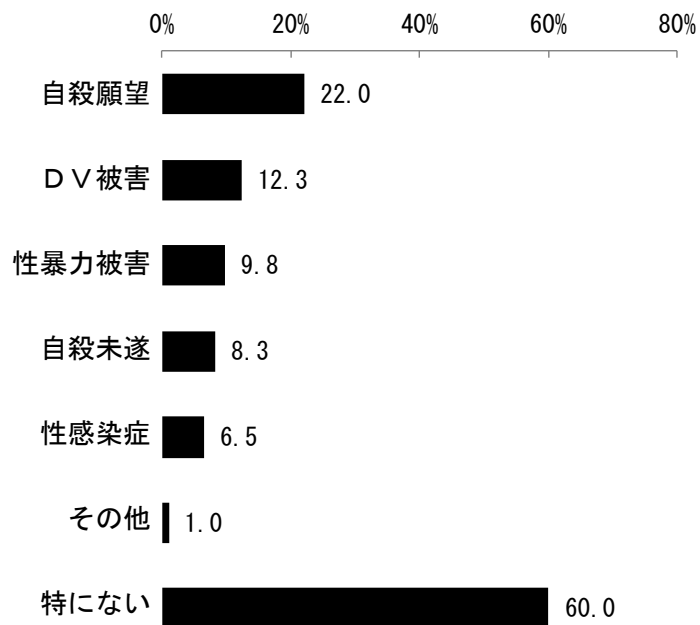
【居住区別】

港区在住者は、「医療や福祉で、法律上の家族と同等のサービスや扱いを受けられないこと」が22.0%と、その他の区在住者の13.1%と比較すると多くなっています。

(4) 経験したことがあるもの

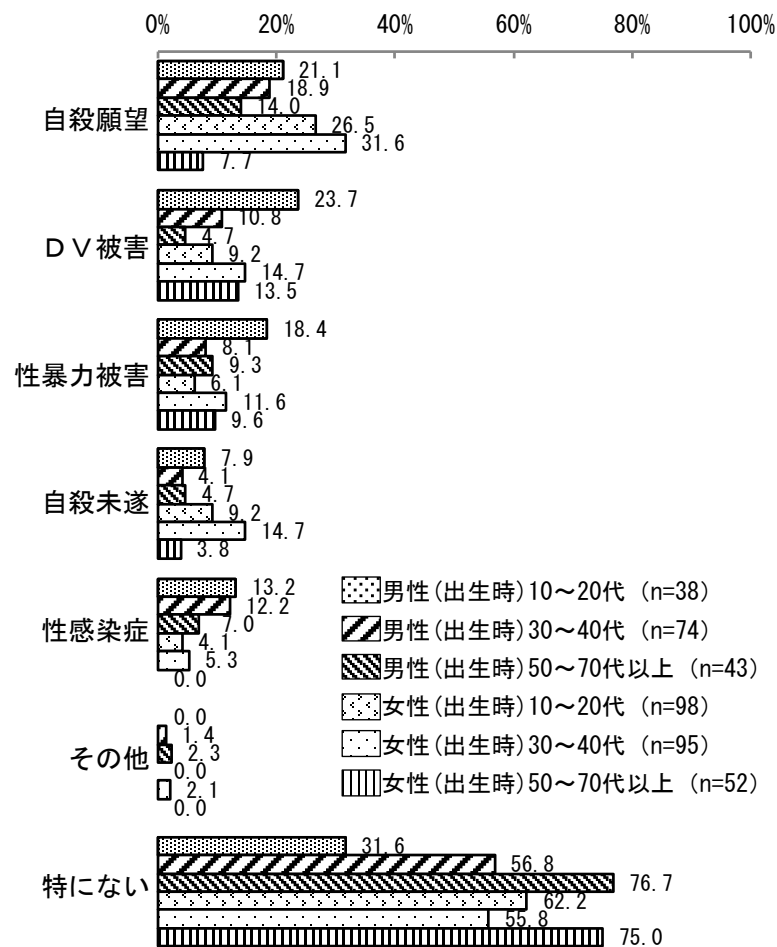
Q17 あなたが経験したことがあるものを教えてください。(複数回答可)	
(n=400)	(%)
1 DV被害	12.3
2 性暴力被害	9.8
3 性感染症	6.5
4 自殺願望	22.0
5 自殺未遂	8.3
6 その他()	1.0
7 特にない	60.0

図表3-6 経験したことがあるもの (n=400)



「特にない」が60.0%で最も多くなっています。経験したことがあるものは、「自殺願望」が22.0%と最も多く、「DV被害」が12.3%、「性暴力被害」が9.8%、「自殺未遂」が8.3%となっています。

図表3-7 経験したことがあるもの（出生時の性別・年代別）（n=400）



【出生時の性別・年代別】

出生時女性の10~20代、30~40代は「自殺願望」がそれぞれ26.5%、31.6%と多くなっています。出生時男性の10~20代は「DV被害」が23.7%、「性暴力被害」が18.4%と多くなっています。

(5) 今までに感じた困難や不安

Q18 あなたが今までに困難や不安について感じていることがありましたら、具体的にご記入ください。(自由回答)

〔主な回答〕

(将来について)

- ・ 将来のこと。このまま、独り身で老後が心配。会社ではLGBTとは関係なく、独り身でいることは実力があっても出世させてもらえない。
- ・ この先もずっと一人で生きていけるか不安。
- ・ 将来的な不安。結婚しているわけではないので。
- ・ 非正規、単身、持病ありの自分ではこなさきれないと思う。自分が死んだ後に誰かにこの労力を押し付けるのも申し訳ない。死後の手間を省ける安楽死施設がほしい。
- ・ 終活時の様々な問題。
- ・ 老後や将来の生活について。(類似回答10件)

(差別や偏見、理解されないことについて)

- ・ 差別まではいなくても、偏見というか、白い目で見られている気がする。
- ・ 自分のセクシュアルな指向性をわかってくれなかったり、否定する。勝手にヘテロセクシュアルだと思われる。
- ・ 見た目の悪口をよく言われる。言われているように感じる。とても辛い。
- ・ 日本はまだまだ閉鎖的な考え方の人が多い。
- ・ 日本における性別への固定観念とその押し付け。
- ・ 渋谷区の同性パートナーシップ証明書があるので安心だけれど、住んでいる地域が高齢者の人が多いので陰口を言われることが多々あることが不満です。
- ・ 差別的な扱いを受けるので、本当のことを話せない。人格異常者扱いされる。
- ・ 正しい知識を持たない多くの人から、ネタのように扱われることが不安。職場などでは、結婚の予定やパートナーがいないことについて時々追求されるので、そういったものを持ちたくない自分にとっては苦痛であり、間違っているとされるのが辛い。
- ・ 同棲相手が戸籍上同性であることを近隣の住民に理解してもらいにくい。
- ・ 結婚、出産の絶対的な価値観ギャップ。必要性を感じないことで敢えて選択しない自由をもっと社会的に認めて生きやすくして欲しい。
- ・ 1人にだけ私はバイセクシュアルだと話したことがあります。その話を聞いてくれた人は理解を示してくれましたが、少し疎遠になった気がします。この経験をもって私はもう一生誰にも言わないでいようと思ってしまいました。もしもパートナーができた時、その相手を少し騙したような気がするのが悲しいです。
- ・ 差別や言葉の暴力(類似回答4件)

(親や家族の理解について)

- ・ 親がLGBTに対して偏見を持っているようなのでカミングアウトできない。
- ・ 祖母に認められない。
- ・ 親からの結婚の圧力が鬱陶しかったこと。
- ・ 両親に結婚や出産を求められる。

(人付き合いや交友関係について)

- ・ 親友を持つ事や、全てを気楽に話せる人がいない、できない、作れない。
- ・ 人と親密になれない。本音を打ち明けられない。
- ・ 自分のメンタルが不安定で、外に出ることがあまりできないので友達すらもできにくい。
- ・ 本当の自分の性格を分かっている人がいないと思う。いつでも明るく盛り上げる役目とされているが、実際はとても暗い自分がある。そのギャップがあり、人間関係、特に友人関係でとても疲れる様感じて、億劫になって来た。周囲と会話が合わない。
- ・ みんなが普通にしていることができない。人がこわい。

(権利や公的サービスについて)

- ・ 配偶者としての権利が同性パートナーでは認められていないこと。
- ・ パートナー、もしくは自分が亡くなった時に家族として扱ってもらえず、葬儀に参列することもできなくなるのではと思うと心苦しい。
- ・ 同性同士の婚姻が認められていないため、パートナーと共に生活し、支え合っていくために必要な権利を得られるか不安がある。

(カミングアウトについて)

- ・ 同性との付き合いを告白できない。
- ・ 周囲の友人にカミングアウトすべきかしないかで悩んだ末、カミングアウトしたが中にはその後対応が変わった人がいた。
- ・ ノーマルの男性を好きになっても打ち明けられない事。
- ・ 対象の人が無理解で、逆に嫌われるのはかなりつらい。

(健康、体調、身体的なことについて)

- ・ 自分の体に対する恥ずかしさ。
- ・ HIVに対する漠然とした恐怖。(類似回答2件)

(経済的なことについて)

- ・ 将来のお金。
- ・ 将来の年金。(類似回答1件)
- ・ 貧困。(類似回答2件)

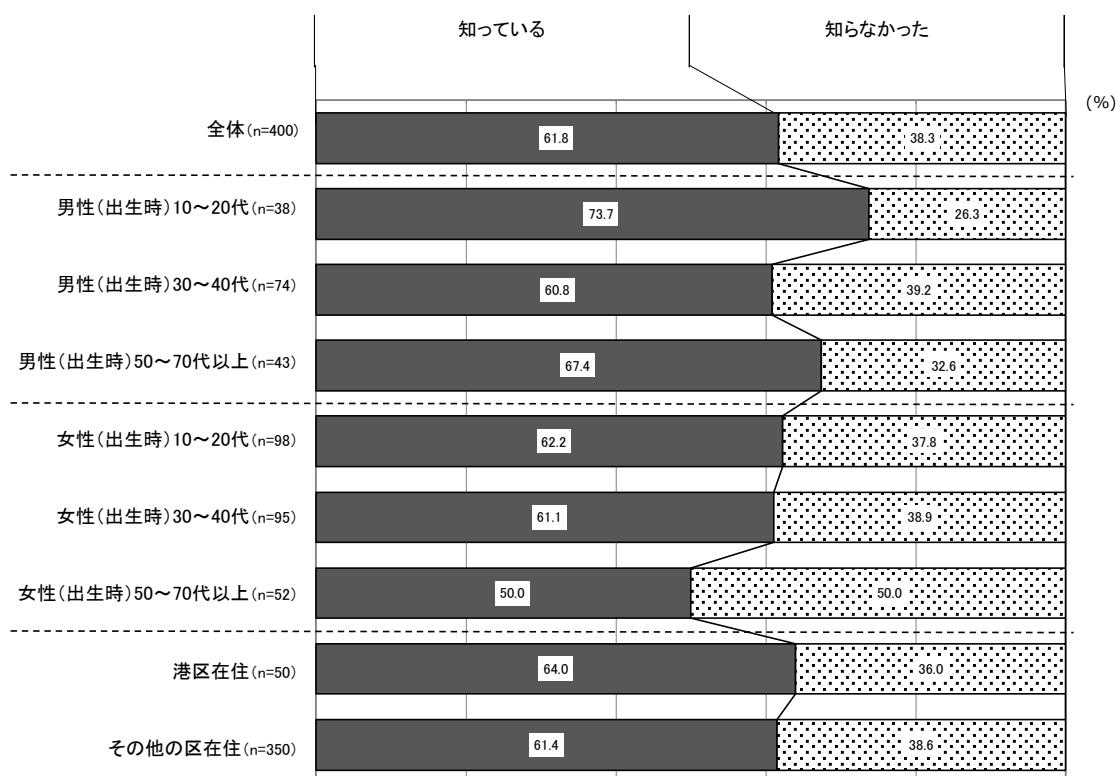
4 自治体等の取り組みについて

(1) 自治体が導入した同性同士の「パートナーシップ宣誓制度」の認知

Q19 渋谷区や世田谷区など、6つの自治体が同性同士の「パートナーシップ宣誓制度」を導入していることを知っていますか。(選択問題 単一回答)	
(n=400)	(%)
1 知っている	61.8
2 知らなかった	38.3

「知っている」が61.8%、「知らなかった」が38.3%となっています。

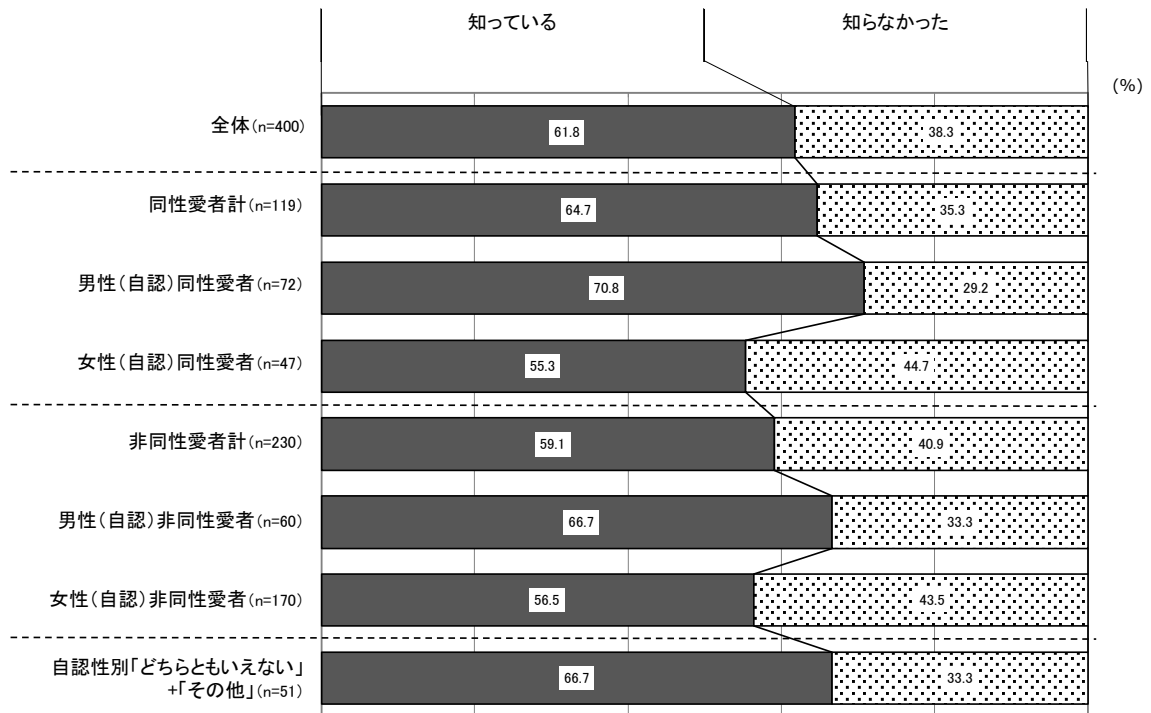
図表4-1 自治体が導入した同性同士の「パートナーシップ宣誓制度」の認知
(出生時の性別・年代別/居住区別) (n=400)



【出生時の性別・年代別】

出生時男性の10~20代は「知っている」が73.7%で多くなっています。30~40代は60.8%、50~70代以上は67.4%となっています。出生時女性の10~20代は「知っている」が62.2%、30~40代は61.1%、50~70代以上は50.0%となっています。

図表4-2 自治体が導入した同性同士の「パートナーシップ宣誓制度」の認知
 (自認している性別・同性愛／非同性愛別) (n=400)



【自認している性別・同性愛／非同性愛別】

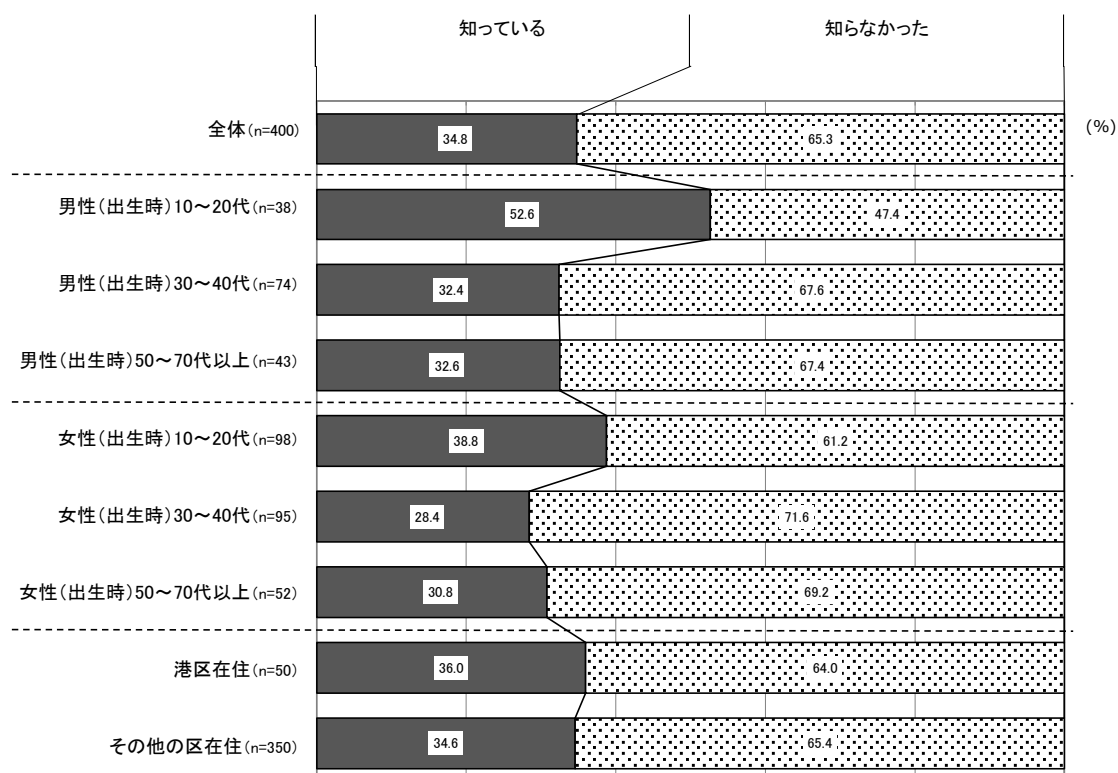
男性を自認している同性愛者は、「知っている」が70.8%で多く、女性を自認している同性愛者は55.3%となっています。男性を自認している非同性愛者は「知っている」が66.7%、女性を自認している非同性愛者は56.5%となっています。

(2) 港区が採択した「パートナーシップ公的認証」の認知

Q20 昨年12月、同性カップルの「パートナーシップ公的認証」に関する請願が、港区議会で採択されたことを知っていますか。(選択問題 単一回答)	
(n=400)	(%)
1 知っている	34.8
2 知らなかった	65.3

「知っている」が34.8%、「知らなかった」が65.3%となっています。

図表4-3 港区が採択した「パートナーシップ公的認証」の認知
(出生時の性別・年代別/居住区別) (n=400)



【出生時の性別・年代別】

出生時男性の10~20代は「知っている」が52.6%で多くなっています。30~40代は32.4%、50~70代以上は32.6%となっています。出生時女性の10~20代は38.8%、30~40代では28.4%、50~70代以上では30.8%となっています。

【居住区別】

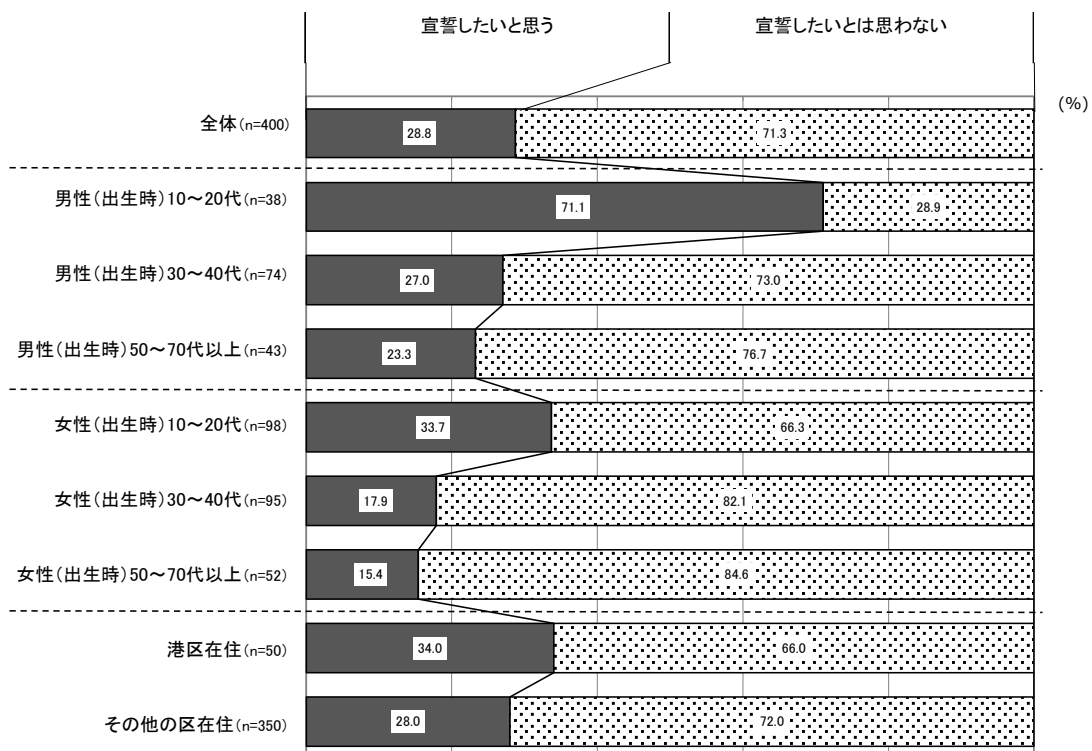
港区在住者は「知っている」が36.0%、その他の区在住者は34.6%と大きな差はありません。

(3) 居住の自治体で「パートナーシップ宣誓制度」がある場合の宣誓意向

Q21 お住まいの自治体で「パートナーシップ宣誓制度」があれば、あなたは宣誓したいと 思いますか。(選択問題 単一回答)	
(n=400)	(%)
1 思う	28.8
2 思わない	71.3

「思う」が28.8%、「思わない」が71.3%となっています。

図表4-4 居住の自治体で「パートナーシップ宣誓制度」がある場合の宣誓意向
(出生時の性別・年代別/居住区別) (n=400)



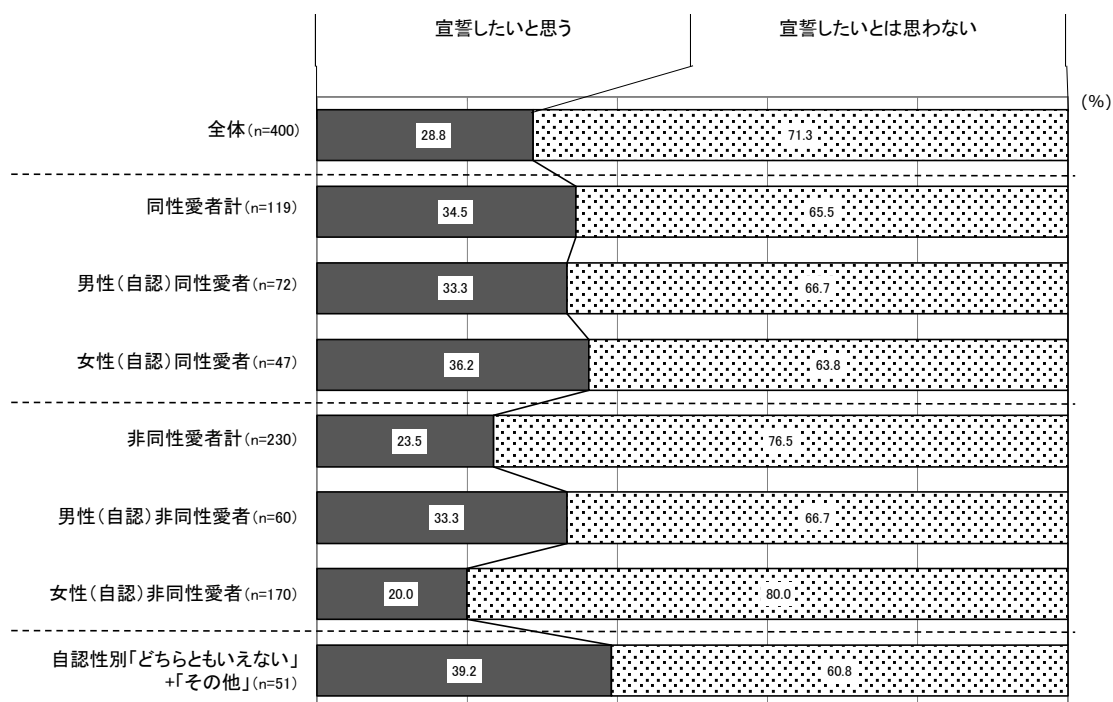
【出生時の性別・年代別】

出生時男性の10~20代は「思う」が71.1%で多く、30~40代は27.0%、50~70代以上は23.3%となっています。出生時女性の10~20代は「思う」が33.7%、30~40代は17.9%、50~70代以上は15.4%となっています。

【居住区別】

港区在住者は、「思う」が34.0%、その他の区在住者は28.0%となっています。

図表4-5 居住の自治体で「パートナーシップ宣誓制度」がある場合の宣誓意向
(自認している性別・同性愛／非同性愛別) (n=400)



【自認している性別・同性愛／非同性愛別】

男性を自認している同性愛者は「思う」が33.3%、女性を自認している同性愛者は36.2%となっています。男性を自認している非同性愛者は「思う」が33.3%、女性を自認している非同性愛者は20.0%となっています。

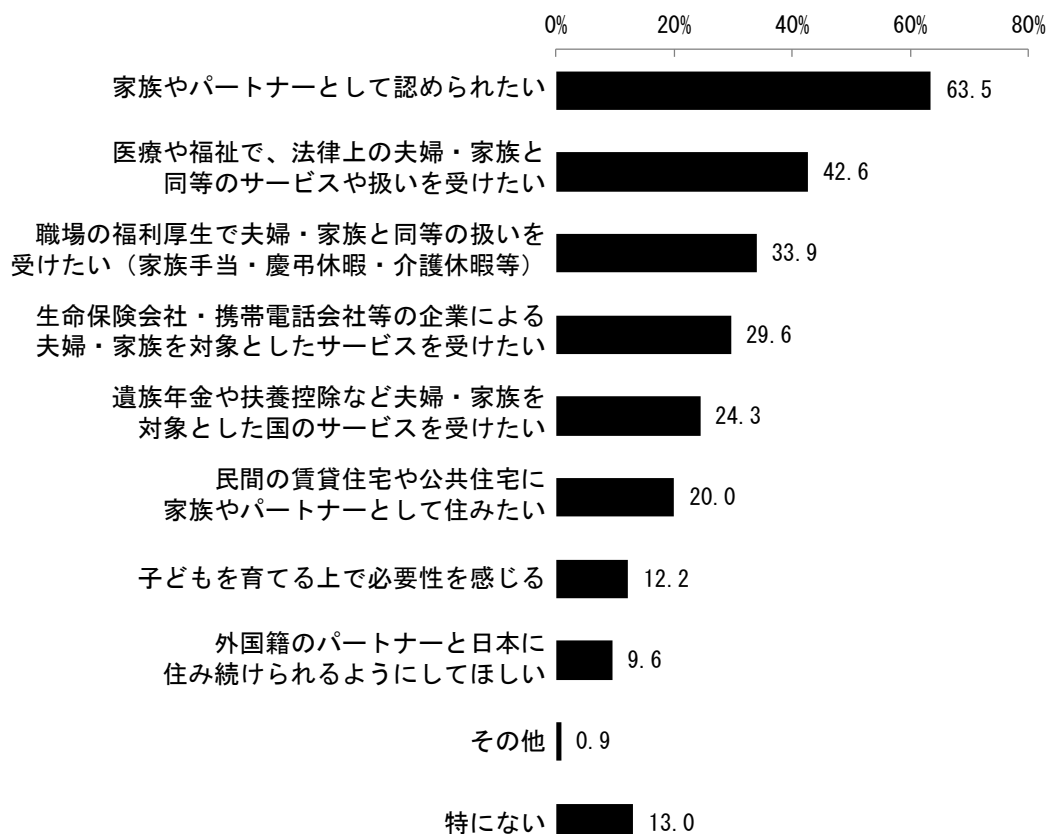
(4) 「パートナーシップ宣誓制度」の活用手段として期待すること

[Q21で「1 思う」を選択された方のみ]

Q22 「パートナーシップの宣誓制度」の活用手段としてあなたが期待することをお答えください。(複数回答可)

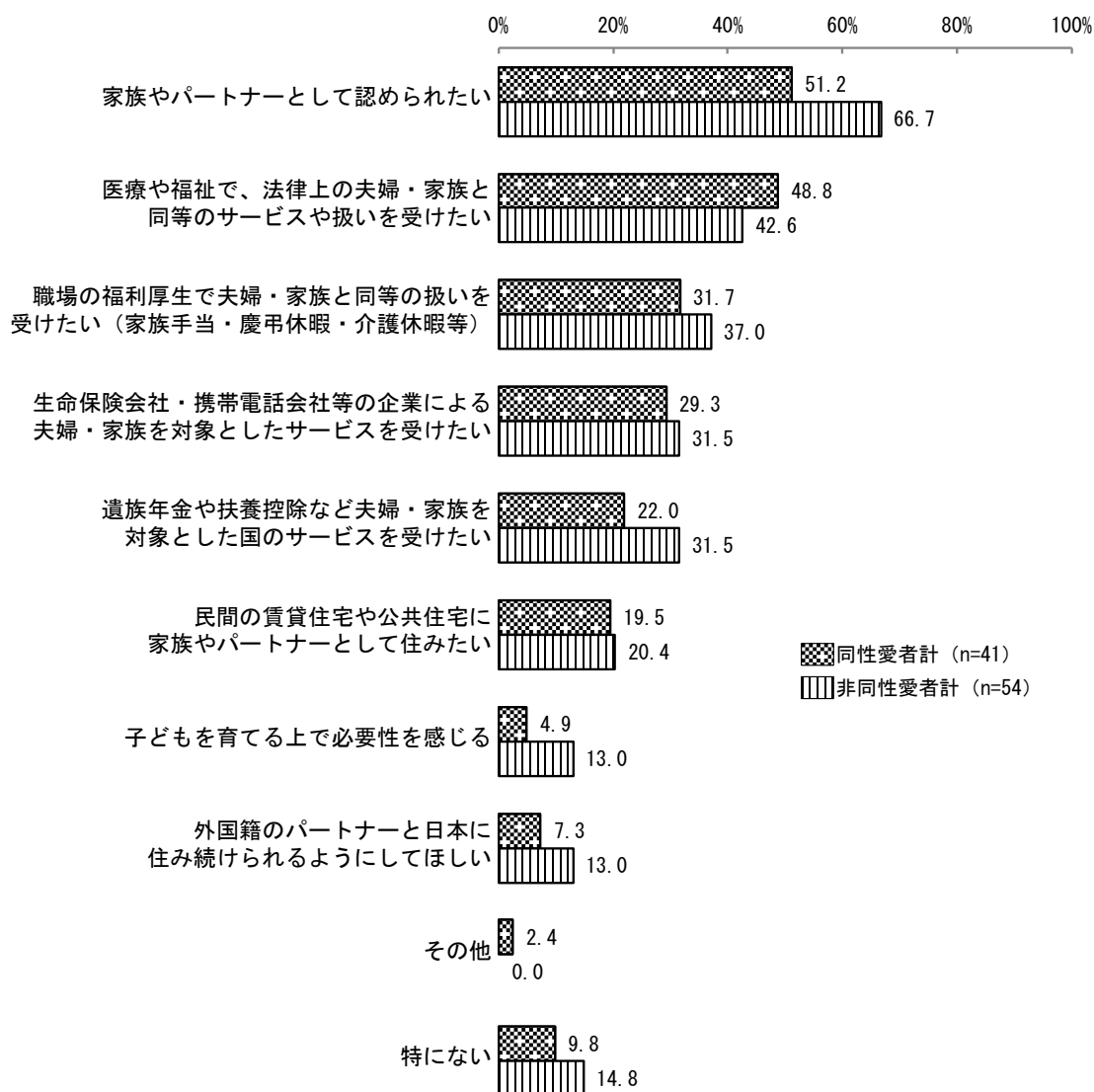
(n=115)	(%)
1 家族やパートナーとして認められたい	63.5
2 医療や福祉で、法律上の夫婦・家族と同等のサービスや扱いを受けたい	42.6
3 職場の福利厚生で夫婦・家族と同等の扱いを受けたい (家族手当・慶弔休暇・介護休暇等)	33.9
4 生命保険会社・携帯電話会社等の企業による夫婦・家族を対象としたサービスを受けたい	29.6
5 遺族年金や扶養控除など夫婦・家族を対象とした国のサービスを受けたい	24.3
6 子どもを育てる上で必要性を感じる	12.2
7 民間の賃貸住宅や公共住宅に家族やパートナーとして住みたい	20.0
8 外国籍のパートナーと日本に住み続けられるようにしてほしい	9.6
9 その他()	0.9
10 特にない	13.0

図表4-6 「パートナーシップ宣誓制度」の活用手段として期待すること
(宣誓したいと思う n=115)



「パートナーシップ宣誓制度」を活用したい意向を持つ方では、「家族やパートナーとして認められたい」が63.5%で最も多く、次いで「医療や福祉で、法律上の夫婦・家族と同等のサービスや扱いを受けたい」が42.6%、「職場の福利厚生で夫婦・家族と同等の扱いを受けたい（家族手当・慶弔休暇・介護休暇等）」が33.9%、「生命保険会社・携帯電話会社等の企業による夫婦・家族を対象としたサービスを受けたい」が29.6%、「遺族年金や扶養控除など夫婦・家族を対象とした国のサービスを受けたい」が24.3%となっています。

図表4-7 「パートナーシップ宣誓制度」の活用手段として期待すること
(同性愛/非同性愛別) (宣誓したいと思う n=115)



【同性愛／非同性愛別】

同性愛者は、「医療や福祉で、法律上の夫婦・家族と同等のサービスや扱いを受けたい」が48.8%と非同性愛者よりも多くなっています。非同性愛者は、「家族やパートナーとして認められたい」が66.7%、「職場の福利厚生で夫婦・家族と同等の扱いを受けたい（家族手当・慶弔休暇・介護休暇等）」が37.0%、「遺族年金や扶養控除など夫婦・家族を対象とした国のサービスを受けたい」が31.5%と同性愛者よりも多くなっています。

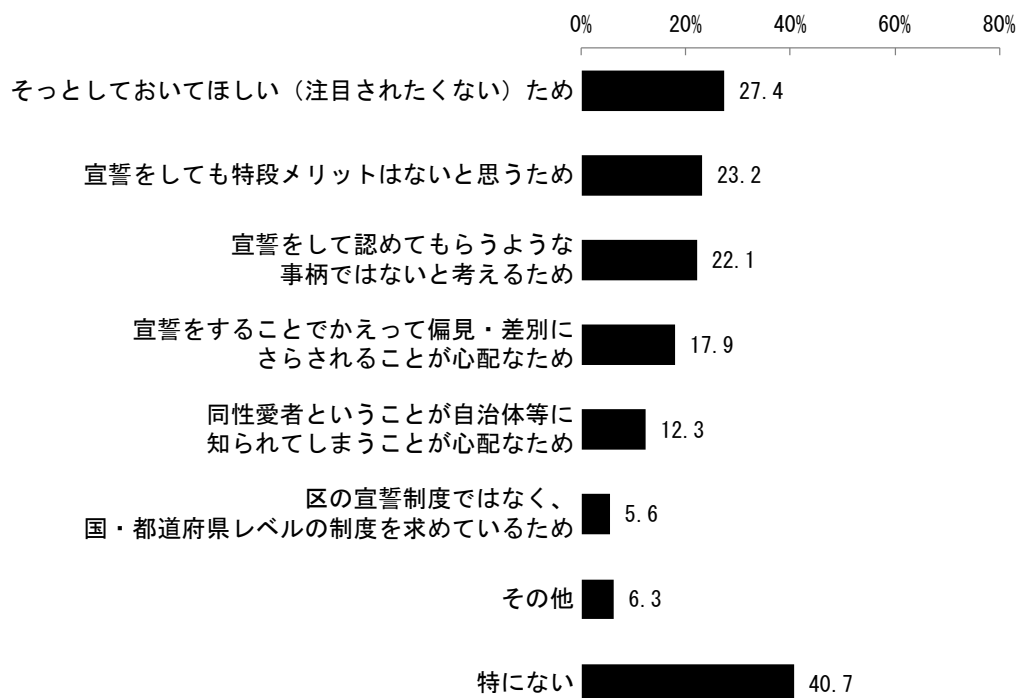
(5) 「パートナーシップ宣誓制度」の宣誓をしたいと思わない理由

[Q21で「2 思わない」を選択された方のみ]

Q23 あなたが、自治体のパートナーシップ宣誓制度の宣誓をしたいと思わない理由を教えてください。(複数回答可)

	(%)
1 宣誓をして認めてもらうような事柄ではないと考えるため	22.1
2 宣誓をしても特段メリットはないと思うため	23.2
3 同性愛者ということが自治体等に知られてしまうことが心配なため	12.3
4 宣誓をすることでかえって偏見・差別にさらされることが心配なため	17.9
5 区の宣誓制度ではなく、国・都道府県レベルの制度を求めているため	5.6
6 そっとしておいてほしい(注目されたくない)ため	27.4
7 その他	6.3
8 特にない	40.7

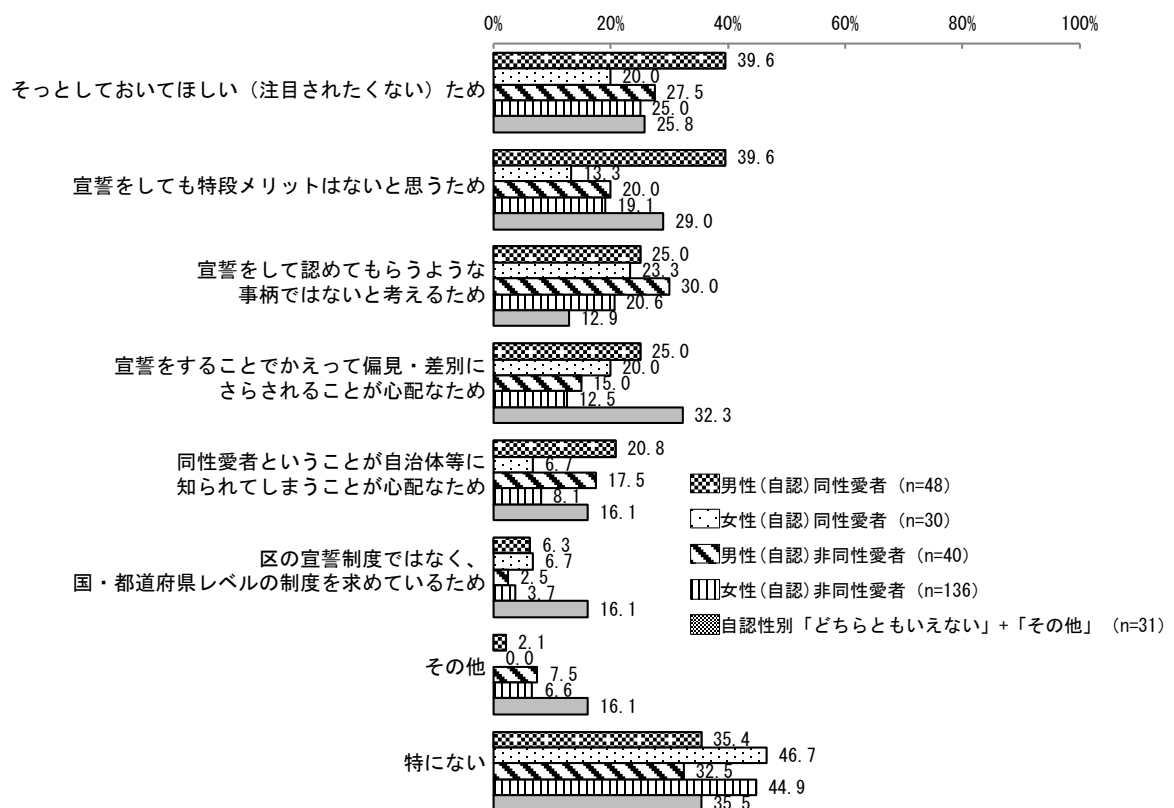
図表4-8 「パートナーシップ宣誓制度」の宣誓をしたいと思わない理由
(宣誓をしたいと思わない n=285)



「パートナーシップ宣誓制度」の宣誓意向のない方では、「特にない」が40.7%で最も多くなっています。宣誓をしたいと思わない理由は、「そっとしておいてほしい(注目さ

れたくない) ため」が27.4%、「宣誓をしても特段メリットはないと思うため」が23.2%、「宣誓をして認めてもらうような事柄ではないと考えるため」が22.1%、「宣誓をすることでかえって偏見・差別にさらされることが心配なため」が17.9%となっています。

図表4-9 「パートナーシップ宣誓制度」の宣誓をしたいと思わない理由
(自認している性別・同性愛/非同性愛別)(宣誓をしたいと思わない n=285)



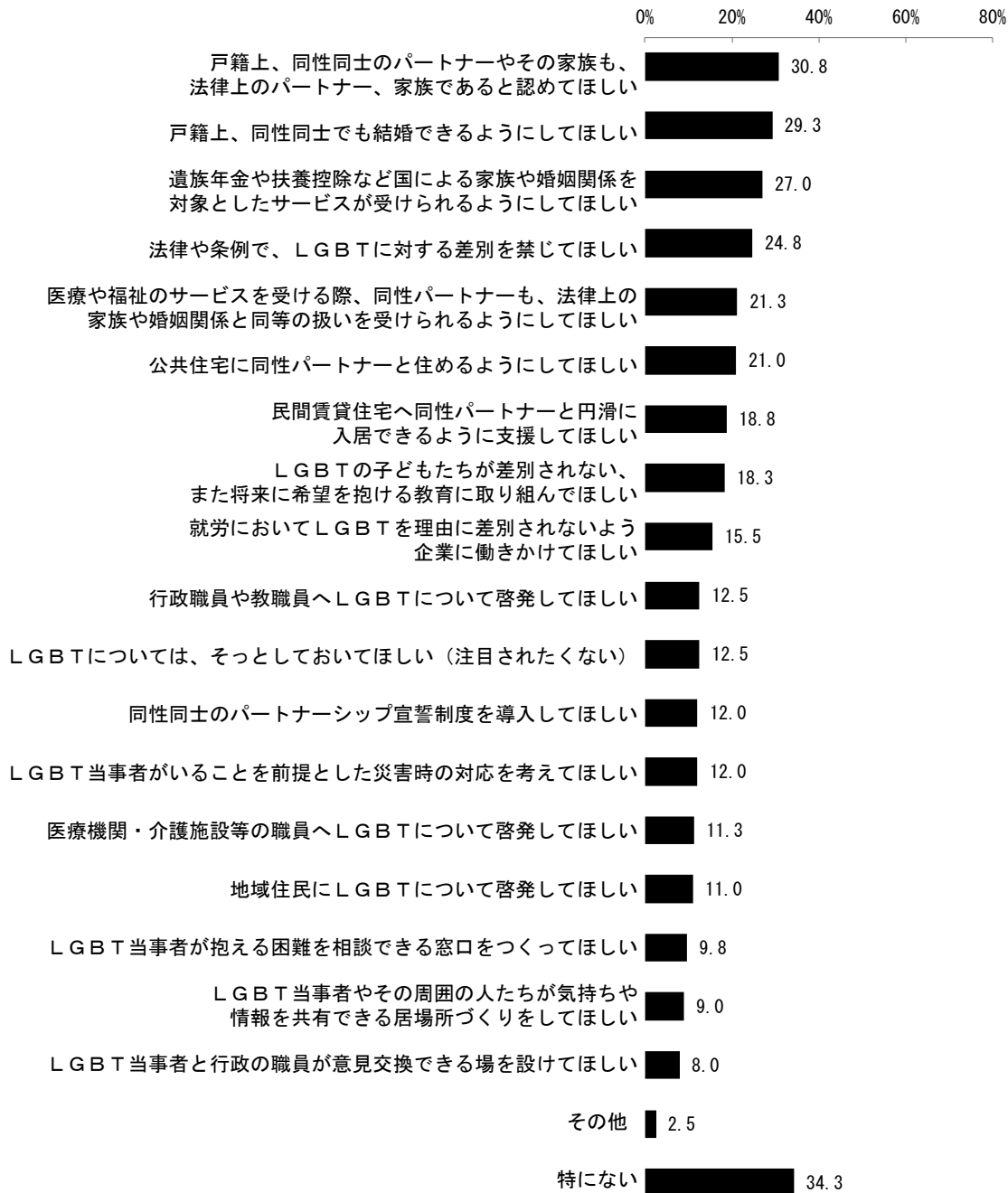
【自認している性別・同性愛/非同性愛別】

男性を自認している同性愛者は「そっとしておいてほしい(注目されたくない)ため」と「宣誓をしても特段メリットはないと思うため」がともに39.6%で多くなっています。

(6) 行政に望むこと

Q24 あなたが行政に望むことを教えてください。(複数回答可)	
(n=400)	(%)
1 戸籍上、同性同士でも結婚できるようにしてほしい	29.3
2 法律や条例で、LGBTに対する差別を禁じてほしい	24.8
3 遺族年金や扶養控除など国による家族や婚姻関係を対象としたサービスが受けられるようにしてほしい	27.0
4 戸籍上、同性同士のパートナーやその家族も、法律上のパートナー、家族であると認めてほしい	30.8
5 同性同士のパートナーシップ宣誓制度を導入してほしい	12.0
6 公共住宅に同性パートナーと住めるようにしてほしい	21.0
7 民間賃貸住宅へ同性パートナーと円滑に入居できるように支援してほしい	18.8
8 医療や福祉のサービスを受ける際、同性パートナーも、法律上の家族や婚姻関係と同等の扱いを受けられるようにしてほしい	21.3
9 就労においてLGBTを理由に差別されないよう企業に働きかけてほしい	15.5
10 医療機関・介護施設等の職員へLGBTについて啓発してほしい	11.3
11 行政職員や教職員へLGBTについて啓発してほしい	12.5
12 地域住民にLGBTについて啓発してほしい	11.0
13 LGBTの子どもたちが差別されない、また将来に希望を抱ける教育に取り組んでほしい	18.3
14 LGBT当事者がいることを前提とした災害時の対応を考えてほしい	12.0
15 LGBT当事者やその周囲の人たちが気持ちや情報を共有できる居場所づくりをしてほしい	9.0
16 LGBT当事者が抱える困難を相談できる窓口をつくってほしい	9.8
17 LGBT当事者と行政の職員が意見交換できる場を設けてほしい	8.0
18 LGBTについては、そっとしておいてほしい(注目されたくない)	12.5
19 その他	2.5
20 特にない	34.3

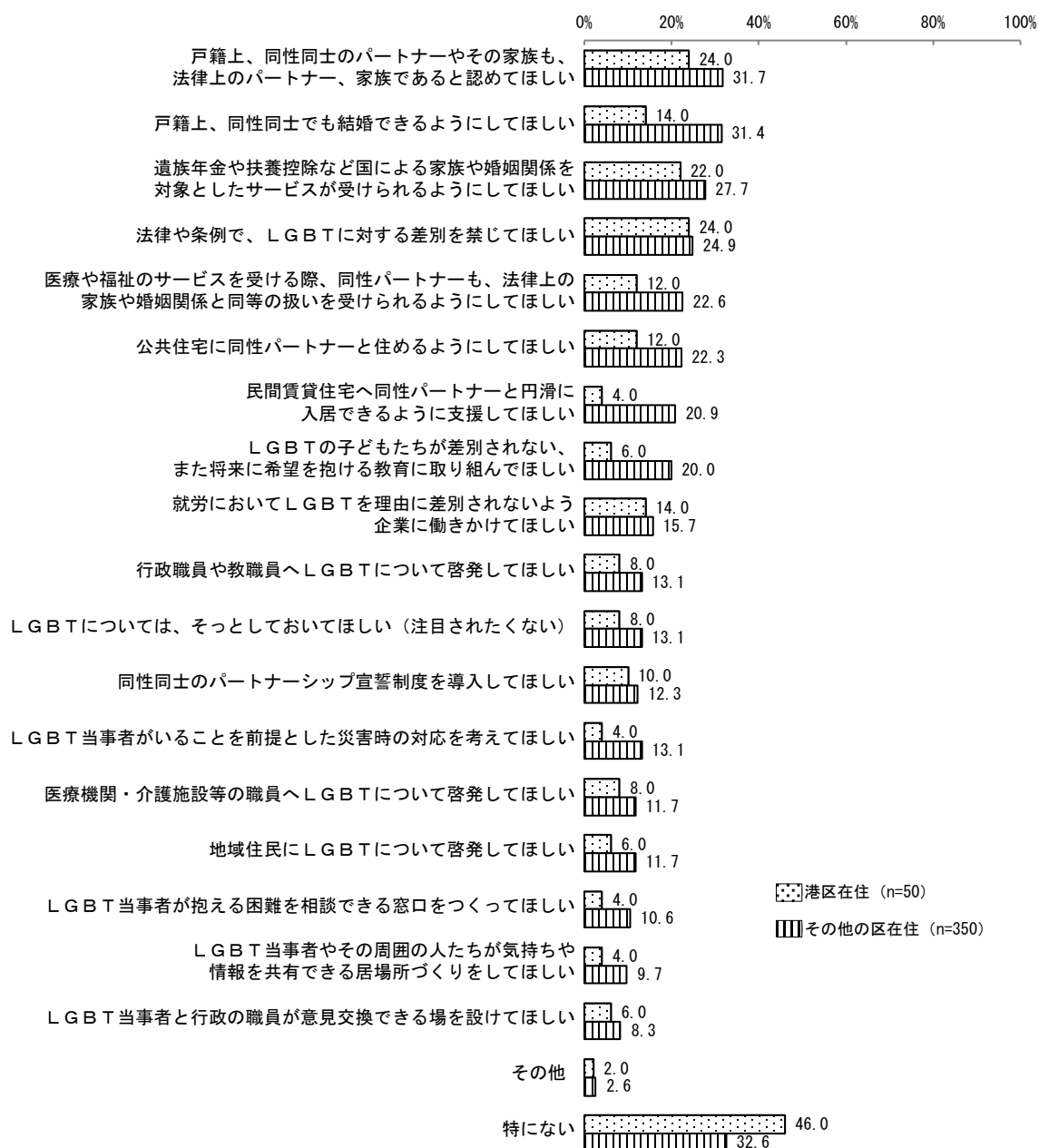
図表4-10 行政に望むこと (n=400)



「特にない」が34.3%で最も多くなっています。要望では、「戸籍上、同性同士のパートナーやその家族も、法律上のパートナー、家族であると認めてほしい」が30.8%、「戸籍上、同性同士でも結婚できるようにしてほしい」が29.3%、「遺族年金や扶養控除など国による家族や婚姻関係を対象としたサービスが受けられるようにしてほしい」が27.0%、「法律や条例で、LGBTに対する差別を禁じてほしい」が24.8%、「医療や福祉のサービスを受ける際、同性パートナーも、法律上の家族や婚姻関係と同等の扱いを受けられる

ようにしてほしい」が21.3%、「公共住宅に同性パートナーと住めるようにしてほしい」が21.0%となっています。

図表4-11 行政に望むこと（居住区別）（n=400）



【居住区別】





港区在住者は「特にない」が46.0%と、その他の区在住者の32.6%と比較すると多くなっています。要望では、「戸籍上、同性同士でも結婚できるようにしてほしい」、「医療や福祉のサービスを受ける際、同性パートナーも、法律上の家族や婚姻関係と同等の扱いを受けられるようにしてほしい」、「公共住宅に同性パートナーと住めるようにしてほしい」、「民間賃貸住宅へ同性パートナーと円滑に入居できるように支援してほしい」、「LGBTの子どもたちが差別されない、また将来に希望を抱ける教育に取り組んでほしい」はその他の区在住者で多く、港区在住者では少なくなっています。

刊行物発行番号 29366-6421

平成29年度（2017年度）
インターネットアンケート調査報告書
性的マイノリティの方々への支援に関する調査

平成30年（2018年）3月発行

発行 港区総務部人権・男女平等参画担当
〒105-8511 港区芝公園1-5-25
電話（03）3578-2111（代表）

区の木	区の花	
 <p>ハナミズキ ■ミズキ科 北米原産 外来種 落葉広葉樹</p>	 <p>アジサイ ■ユキノシタ科 日本（関東南部）原産 落葉広葉樹 1.5 ~ 2.0m</p>	 <p>バラ ■バラ科 日本、中国、欧州原産 常緑落葉低木つる</p>
 <p>港区のマークは、昭和24年7月30日に制定されました。 旧芝・麻布・赤坂の三区を一丸とし、その象徴として 港区の頭文字である『み』を力強く、図案化したものです。</p>		



港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。
この報告書は、古紙を活用した再生紙を使用しています。